

第I章 生活設計と生活保障意識

1. 生活設計意識

ここでは、人々が自分自身や家族の将来をどのようにしたいか、そのための経済的な準備をどうしたらよいかといった、具体的な生活設計の有無と、どのくらい先のことまでについて考えているのかを捉えている。

(1) 生活設計の有無

自分や家族の将来のために具体的な生活設計を立てているかどうかを捉えるため、以下のように尋ねた。

あなたは、ご自身やご家族の将来をどのようにしたいか、そのための経済的な準備をどうしたらよいかといった、具体的な生活設計を立てていますか。

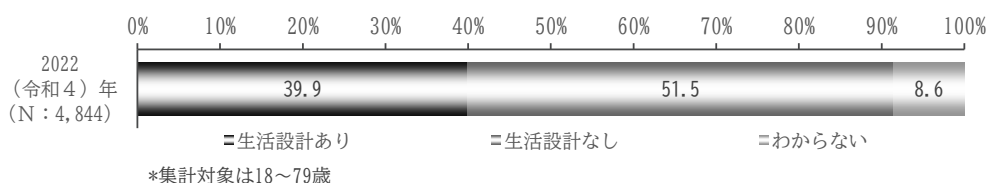
はい……………以下「生活設計あり」

いいえ……………以下「生活設計なし」

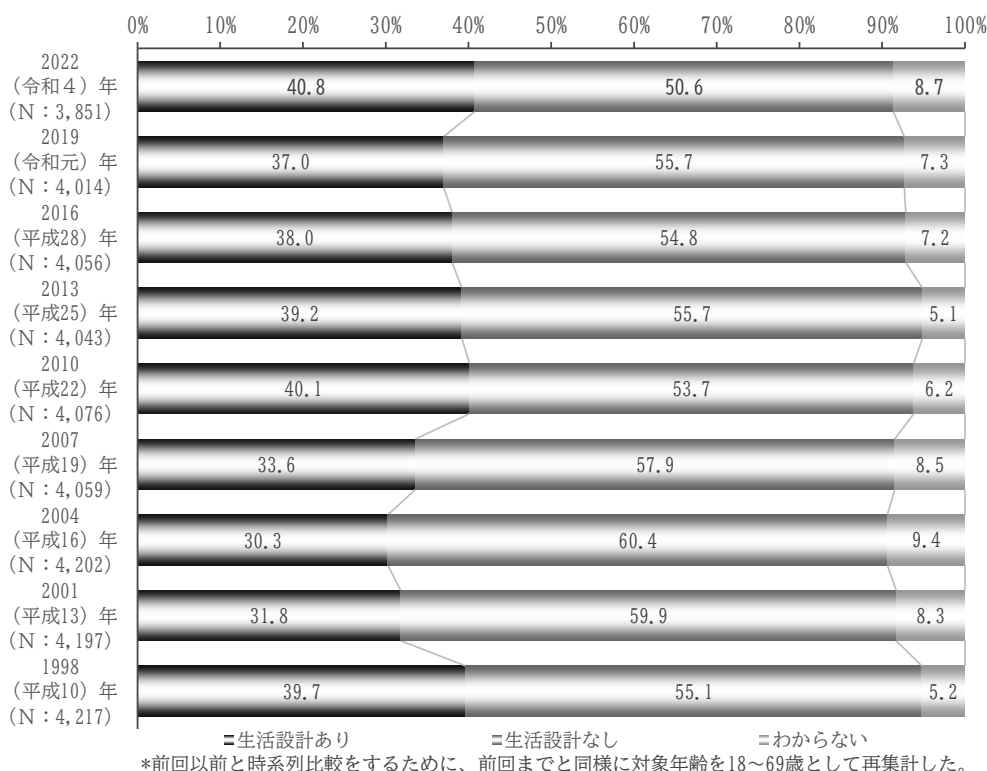
わからない

その結果、「生活設計あり」と回答した人は 39.9%、「生活設計なし」とした人は 51.5%となっている。(図表 I-1)

<図表 I-1> 生活設計の有無



【参考】前回と比較すると、「生活設計あり」が3.8ポイント増加している。



性・年齢別にみると、「生活設計あり」は男性の40歳代で高くなっている。(図表I-2)

<図表 I-2> 生活設計の有無〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	生活設計あり	生活設計なし	わからない
男 性	2,141	40.6	50.5	8.9
20歳代	235	27.7▲	59.6	12.8
30歳代	275	43.3	47.3	9.5
40歳代	375	46.7	47.2	6.1▲
50歳代	358	44.1	46.4	9.5
60歳代	422	44.3	47.9	7.8
70歳代	447	35.3▲	55.7	8.9
女 性	2,703	39.3	52.4	8.3
20歳代	210	29.0▲	60.0	11.0
30歳代	366	41.5	50.3	8.2
40歳代	534	41.9	49.8	8.2
50歳代	508	42.5	51.8	5.7▲
60歳代	505	40.4	49.7	9.9
70歳代	546	37.4	55.1	7.5

性・世帯年収別にみると、「生活設計あり」は男女とも高年収層ほど高くなっている。(図表I-3)

<図表 I-3> 生活設計の有無〔性・世帯年収別〕

(単位：%)

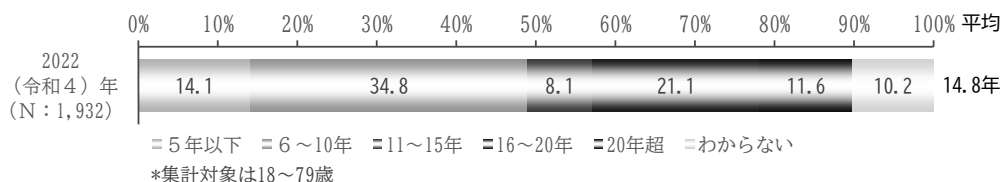
	N	生活設計あり	生活設計なし	わからない
男 性	2,141	40.6	50.5	8.9
300万円未満	631	24.2▲	65.6	10.1
300～500万円未満	465	40.9	52.0	7.1
500～700万円未満	263	46.4	45.2	8.4
700～1,000万円未満	234	56.4	37.6▲	6.0
1,000万円以上	135	74.1	23.7▲	2.2▲
女 性	2,703	39.3	52.4	8.3
300万円未満	791	25.9▲	64.0	10.1
300～500万円未満	445	38.9	55.3	5.8▲
500～700万円未満	339	49.3	45.1▲	5.6
700～1,000万円未満	289	56.4	38.4▲	5.2▲
1,000万円以上	156	63.5	32.1▲	4.5

(2) 生活設計の期間

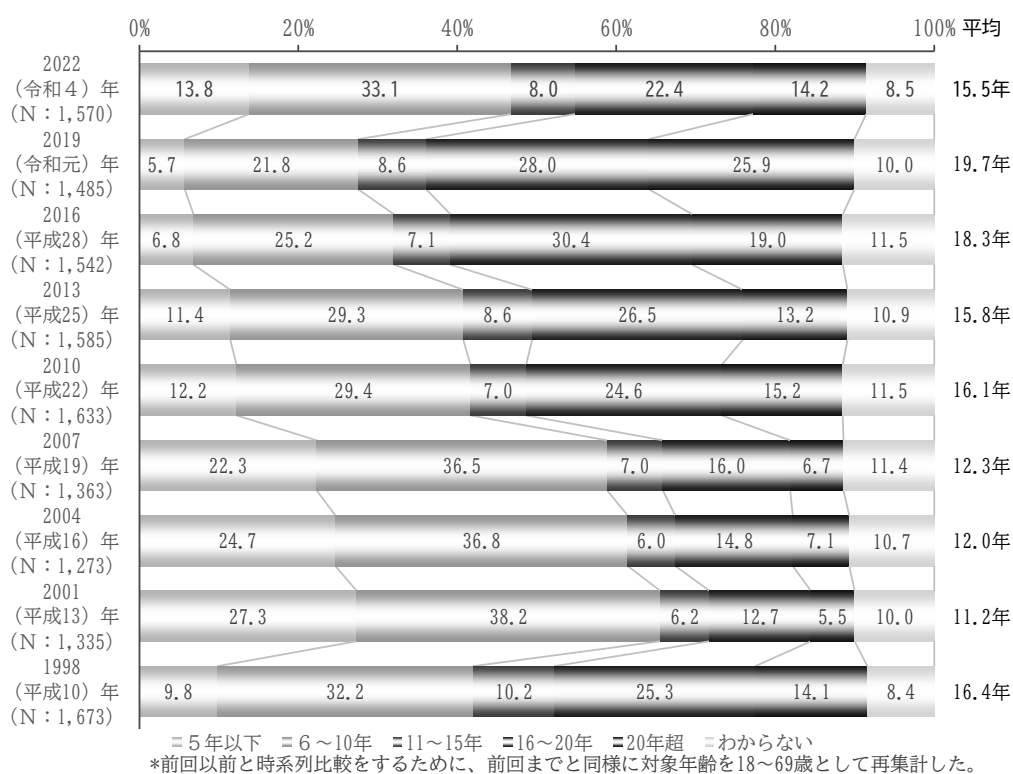
「生活設計あり」と回答した人に、「それはだいたい何年ぐらい先のことまでですか」と尋ねたところ、平均期間は14.8年となっている。

期間の分布をみると、「6～10年」が34.8%で最も多く、以下「16～20年」(21.1%)、「5年以下」(14.1%)となっている。(図表I-4)

<図表 I-4> 生活設計の期間



【参考】前回と比較すると、「20年超」が11.7ポイント、「16～20年」が5.6ポイント減少し、「6～10年」が11.3ポイント、「5年以下」が8.1ポイント、それぞれ増加している。



平均期間を性別にみると、男性では14.6年、女性では14.9年となっている。

期間の分布をみると、男女とも20歳代では「5年以下」が高く、男性30～40歳代、女性30歳代では「20年超」が、高くなっている。また、女性の50歳代では「16～20年」が、男性の70歳代、女性の60歳代では「6～10年」が、それぞれ高くなっている。(図表I-5)

<図表 I-5> 生活設計の期間〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	5年以下	6～10年	11～15年	16～20年	20年超	わからない	平均(年)
男 性	869	15.9	35.0	7.8	19.9	12.4	9.0	14.6
20歳代	65	43.1	23.1▲	3.1	10.8	13.8	6.2	12.4
30歳代	119	11.8	21.8▲	8.4	17.6	29.4	10.9	19.4
40歳代	175	14.3	33.1	7.4	22.9	17.7	4.6▲	15.9
50歳代	158	12.7	35.4	5.7	25.3	12.7	8.2	15.3
60歳代	187	9.6▲	40.6	11.2	24.1	6.4▲	8.0	14.0
70歳代	158	19.0	45.6	7.6	12.7▲	0.6▲	14.6	10.6
女 性	1,063	12.7	34.7	8.4	22.0	11.0	11.2	14.9
20歳代	61	27.9	29.5	4.9	13.1	16.4	8.2	15.8
30歳代	152	15.8	21.7▲	10.5	17.1	25.0	9.9	18.2
40歳代	224	11.2	35.7	7.1	25.0	13.8	7.1▲	15.5
50歳代	216	11.1	31.5	6.5	27.3	13.0	10.6	15.5
60歳代	204	9.3	42.6	9.8	24.5	4.4▲	9.3	13.5
70歳代	204	12.7	40.2	9.8	17.2	0.5▲	19.6	11.9

(3) 生活設計を立てない理由

「生活設計なし」と回答した人に、その理由を以下のように尋ねた。

あなたが具体的な生活設計を立てていない理由は何ですか。この中で最も近いと思うものを1つ選んでお答え下さい。

(ア) 収入や支出などの将来の見通しを立てることが難しいから ……以下「将来の見通しを立て難いから」

(イ) 将来に備えるための経済的な余裕がないから ……以下「経済的余裕がないから」

(ウ) 生活設計を立てなくても、なんとか暮らしていけるから ……以下「なんとか暮らしていけるから」

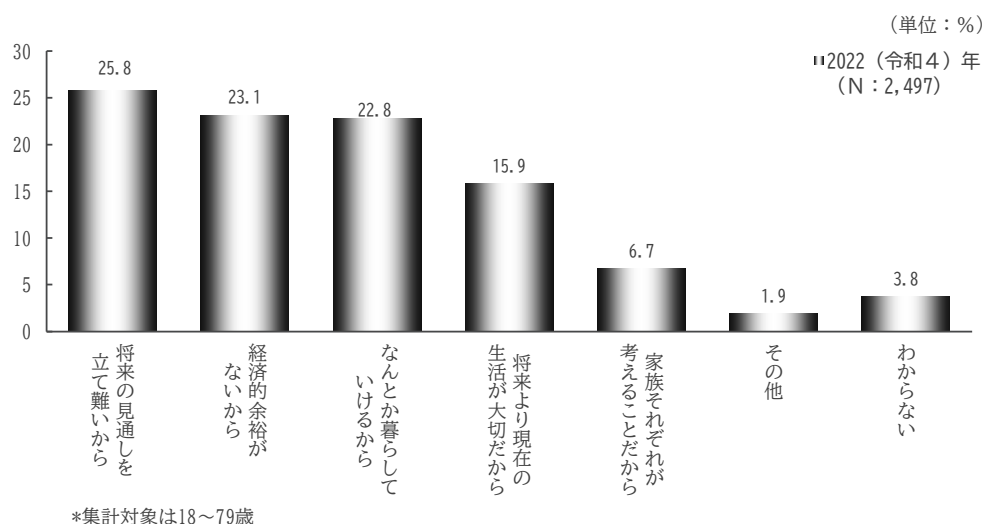
(エ) 将来よりも現在の生活を充実させることの方が大切だから ……以下「将来より現在の生活が大切だから」

(オ) 家族がそれぞれで考えるべきことだから ……以下「家族それぞれが考えることだから」

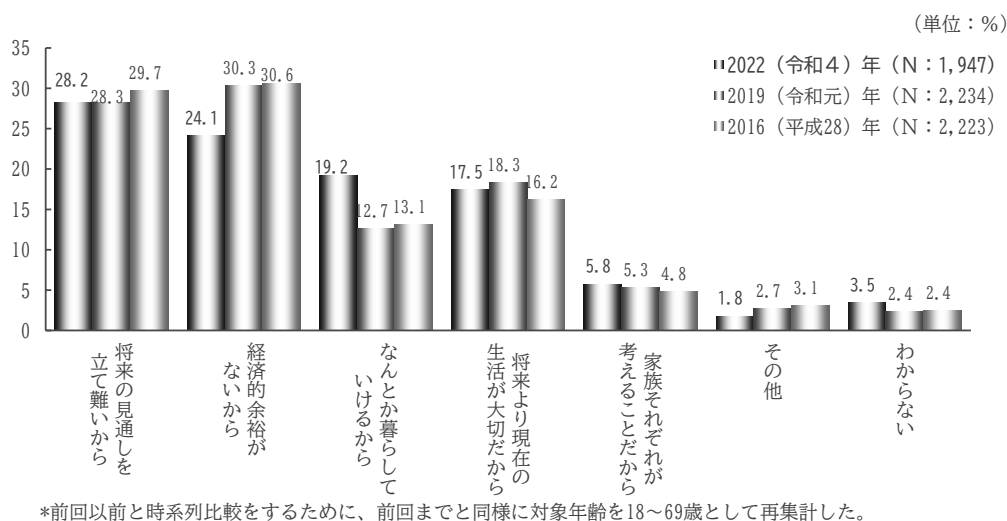
(カ) その他
わからない

その結果、「将来の見通しを立て難いから」が25.8%と最も高く、以下「経済的余裕がないから」(23.1%)、「なんとか暮らしていけるから」(22.8%)、「将来より現在の生活が大切だから」(15.9%)の順となっている。(図表 I-6)

<図表 I-6> 生活設計を立てない理由



【参考】前回と比較すると、「なんとか暮らしていけるから」が6.5ポイント増加し、「経済的余裕がないから」が6.2ポイント減少している。



性別にみると男性で「なんとか暮らしていけるから」が、女性で「経済的余裕がないから」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも「なんとか暮らしていけるから」は60～70歳代で、「家族それぞれが考えることだから」は70歳代で、それぞれ高くなっている。また、「将来の見通しを立て難いから」は男性20歳代、女性50歳代で、「将来より現在の生活が大切だから」は男性20～30歳代、女性20歳代で、「経済的余裕がないから」は男性50歳代、女性40歳代で、それぞれ高くなっている。(図表I-7)

＜図表 I-7＞ 生活設計を立てない理由〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	立将来 て来 難い 見通 らし しを	な経済 いから から余 裕が	いなん けんと から暮 らして	生将来 活来 がよ り大 切現 在だ から	考家 え族 るそ れぞ れだ れが ら	そ の 他	わ か ら な い
男 性	1,081	26.4	19.3	27.5	15.1	5.6	2.4	3.7
20歳代	140	35.7	15.0	13.6▲	23.6	7.1	2.9	2.1
30歳代	130	23.1	16.2	27.7	24.6	3.1	1.5	3.8
40歳代	177	28.2	23.7	19.2▲	19.2	4.0	2.3	3.4
50歳代	166	30.7	27.1	18.1▲	12.7	7.2	1.2	3.0
60歳代	202	26.7	17.3	36.6	8.4▲	3.5	4.0	3.5
70歳代	249	17.3▲	18.1	41.0	8.8▲	8.4	2.0	4.4
女 性	1,416	25.3	26.1	19.3	16.5	7.6	1.6	3.8
20歳代	126	27.8	19.8	11.1▲	27.0	6.3	0.8	7.1
30歳代	184	29.9	23.4	18.5	19.6	4.9	0.5	3.3
40歳代	266	26.7	34.2	11.3▲	17.3	6.0	1.9	2.6
50歳代	263	30.0	30.0	12.9▲	17.1	6.1	1.5	2.3
60歳代	251	21.5	25.9	26.3	13.1	8.4	1.2	3.6
70歳代	301	16.9▲	21.3▲	31.2	11.3▲	11.6	2.7	5.0

2. 将来のライフイベントと経済的準備状況

(1) 想定される将来のライフイベント

自分や家族の将来のライフイベントとして想定していることを捉えるため、以下のように尋ねた。

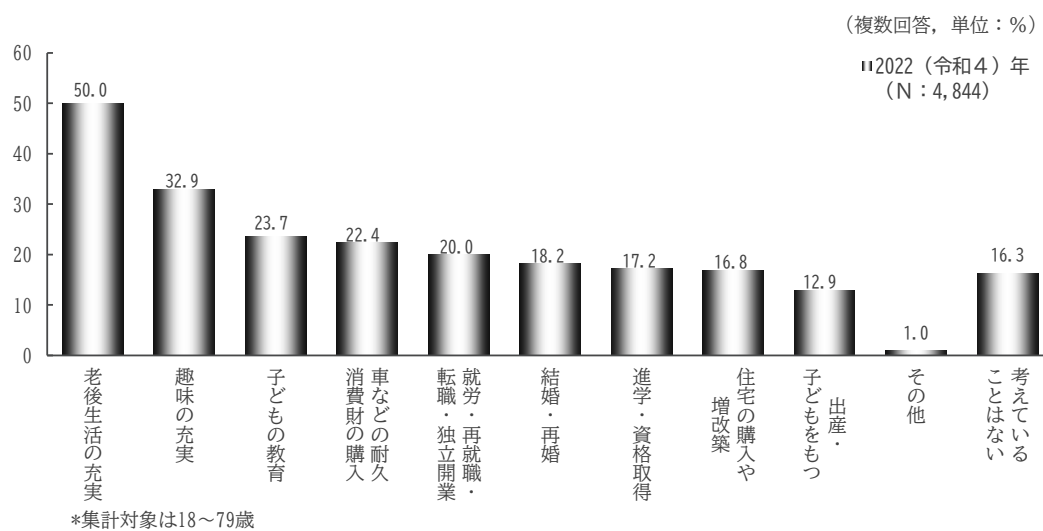
あなたは、ご自身やご家族の将来のライフイベントとして考えていることはどれですか。この中からいくつでもお選びください。

それでは、今お答えいただいた中で、最も重要なライフイベントを1つだけお選びください。

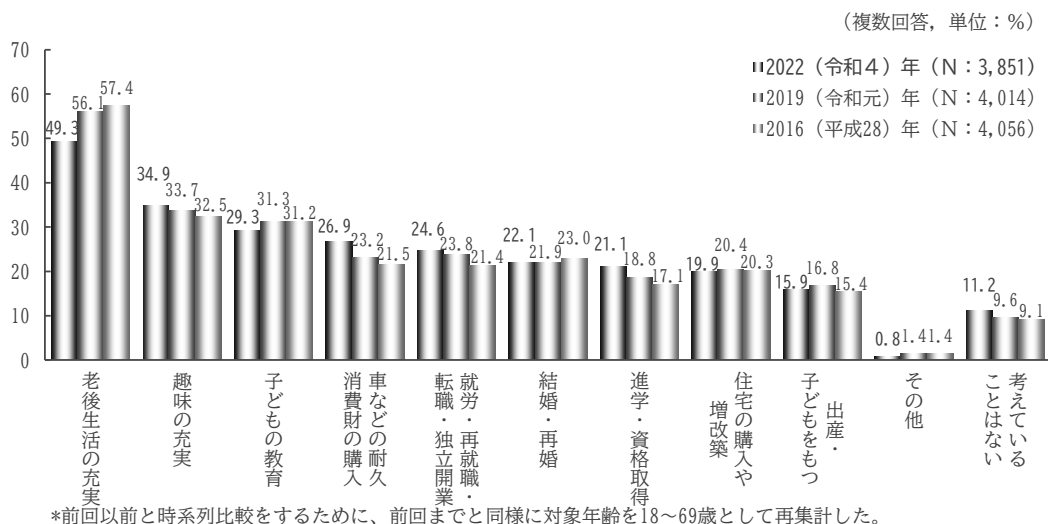
- (ア) 就労・再就職・転職・独立開業
- (イ) 進学・資格取得
- (ウ) 結婚・再婚
- (エ) 出産・子どもをもつ
- (オ) 子どもの教育
- (カ) 住宅の購入や増改築
- (キ) 車などの耐久消費財の購入
- (ク) 趣味の充実
- (ケ) 老後生活の充実
- (コ) その他
- 考えていることはない

その結果、「老後生活の充実」が50.0%で最も高く、以下「趣味の充実」(32.9%)、「子どもの教育」(23.7%)、「車などの耐久消費財の購入」(22.4%)、「就労・再就職・転職・独立開業」(20.0%)の順となっている。(図表 I-8)

<図表 I-8> 想定される将来のライフイベント



【参考】前回と比較すると、「老後生活の充実」が6.8ポイント減少している。



性別にみると、男性で「趣味の充実」が、女性で「老後生活の充実」、「子どもの教育」が、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも「就労・再就職・転職・独立開業」、「結婚・再婚」、「進学・資格取得」、「住宅の購入や増改築」、「出産・子どもをもつ」は概ね若年齢層ほど高く、「老後生活の充実」は高年齢層ほど高くなっている。また、「子どもの教育」は男女とも30歳代を中心に20～40歳代で高くなっている。(図表 I-9)

<図表 I-9> 想定される将来のライフイベント〔性・年齢別〕

(複数回答, 単位: %)

	N	老後生活の充実	趣味の充実	子どもの教育	車などの耐久消費財の購入	就労・再就職・転職・独立開業	結婚・再婚	進学・資格取得	住宅の購入や増改築	出産・子どもをもつ	その他	考えていることはない
男性	2,141	46.3	36.5	22.3	23.6	19.5	19.0	16.3	16.4	12.7	0.9	17.8
20歳代	235	23.0▲	48.9	29.4	34.9▲	46.8	45.5	24.3	28.1	35.3	0.0	7.2▲
30歳代	275	33.8▲	39.3	53.8	33.1▲	22.5	24.0	23.6	27.3	20.0	0.0	8.7▲
40歳代	375	41.3▲	40.8	45.9	29.1▲	24.3	23.2	32.5	16.0	12.5	0.3	9.3▲
50歳代	358	54.2	34.4	14.5▲	29.9	24.0	21.2	14.8	21.8	14.0	1.1	15.9
60歳代	422	61.6	35.5	4.0▲	17.5▲	9.7▲	10.0▲	5.0▲	11.1▲	5.0▲	1.4	19.7
70歳代	447	51.2	26.4▲	2.7▲	6.7▲	2.5▲	2.9▲	3.1▲	4.5▲	1.3▲	1.8	36.5
女性	2,703	52.9	30.0	24.8	21.4	20.3	17.5	17.9	17.2	13.1	1.1	15.1
20歳代	210	29.5▲	41.4	36.7	26.7	40.0	43.3	21.0	30.0	44.8	0.0	3.8▲
30歳代	366	39.6▲	32.0	59.6	35.5	34.7	20.5	31.1	25.1	25.7	0.3	4.4▲
40歳代	534	51.7	30.0	51.3	32.2	28.1	21.5	38.4	21.2	12.9	0.6	7.1▲
50歳代	508	65.6	32.5	14.6▲	26.4	22.0	20.9	14.8▲	19.9	10.0▲	1.6	10.2▲
60歳代	505	63.2	27.7	3.0▲	11.9▲	9.1▲	10.5▲	4.0▲	11.3▲	5.3▲	1.6	19.4
70歳代	546	53.5	24.2▲	1.3▲	3.7▲	1.6▲	3.1▲	1.5▲	5.5▲	1.3▲	1.5	35.3

性・ライフステージ別にみると、「子どもの教育」、「進学・資格取得」は男女ともに“既婚・末子未就学児”から“既婚・末子中学生、高校生”の層で高くなっている。また、「老後生活の充実」は男性では“既婚・子どもなし”および“既婚・子どもすべて卒業（未婚）”、“既婚・子どもすべて卒業（既婚）”で、女性では“既婚・末子短大・大学・大学院生”から“既婚・子どもすべて卒業（既婚）”で高く、「住宅の購入や増改築」は男性では“既婚・末子未就学児”、“既婚・末子中学生、高校生”で、女性では“既婚・末子未就学児”から“既婚・末子中学生、高校生”で、「結婚・再婚」は男女とも“未婚”および“既婚・末子・中学生、高校生”、“既婚・末子短大・大学・大学院生”で高くなっている。（図表 I -10）

＜図表 I-10＞ 想定される将来のライフイベント〔性・ライフステージ別〕

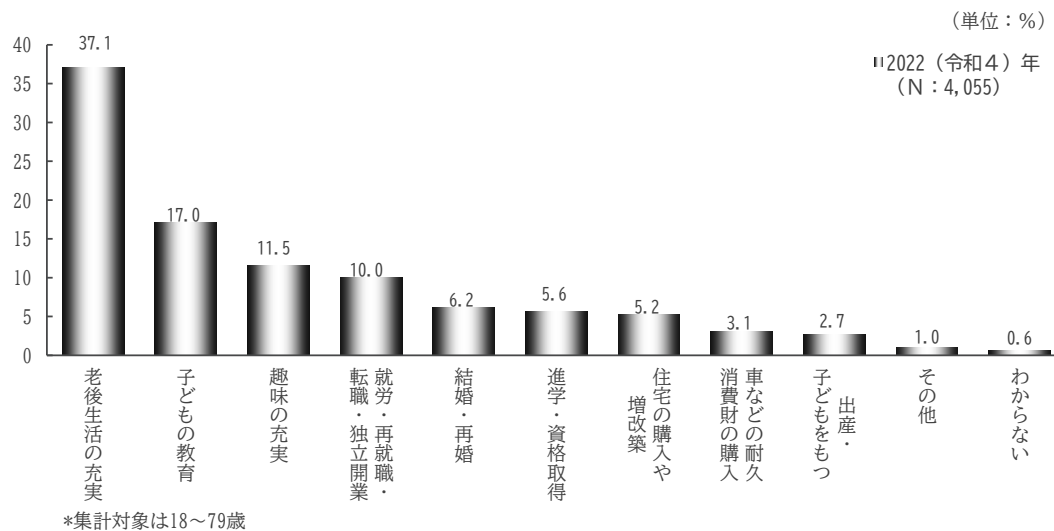
(複数回答, 単位: %)

	N	老後生活の充実	趣味の充実	子どもの教育	車などの購入の耐久消費財	職・労・独立開業・再就職・転	結婚・再婚	進学・資格取得	住宅の購入や増改築	出産・子どもをもつ	その他	い考えていることはな
男性	2,141	46.3	36.5	22.3	23.6	19.5	19.0	16.3	16.4	12.7	0.9	17.8
未婚	576	27.6▲	39.1	10.4▲	25.2	32.1	30.9	14.6	18.6	15.3	0.3	21.0
既婚・子どもなし	153	56.9	43.8	10.5▲	25.5	9.8▲	2.0▲	5.2▲	20.9	21.6	0.0	13.7
既婚・末子未就学児	194	42.8	41.2	89.2	40.2	23.2	22.7	43.3	26.3	24.7	0.0	2.6▲
既婚・末子小学生	165	40.6	37.0	68.5	34.5	27.9	21.8	38.2	18.2	12.7	0.0	3.0▲
既婚・末子中学生、高校生	136	50.7	34.6	55.1	27.9	30.1	30.9	47.8	23.5	19.1	0.7	8.1▲
既婚・末子短大・大学・大学院生	71	56.3	38.0	8.5▲	35.2	40.8	36.6	22.5	22.5	22.5	1.4	7.0▲
既婚・子どもすべて卒業（未婚）	401	57.1	32.2▲	3.2▲	18.5▲	9.2▲	15.5▲	2.5▲	13.5	7.2▲	1.0	22.4
既婚・子どもすべて卒業（既婚）	418	59.6	32.8	4.5▲	11.0▲	3.8▲	3.1▲	4.1▲	6.5▲	2.2▲	2.4	27.5
女性	2,703	52.9	30.0	24.8	21.4	20.3	17.5	17.9	17.2	13.1	1.1	15.1
未婚	410	36.8▲	37.8	12.4▲	21.0	35.6	36.1	16.8	20.2	23.4	0.5	14.6
既婚・子どもなし	175	54.3	38.9	9.7▲	24.0	12.0▲	0.0▲	2.3▲	21.7	22.3	1.7	13.7
既婚・末子未就学児	266	44.0▲	30.1	85.0	37.6	36.8	15.8	39.1	28.6	26.3	0.0	1.9▲
既婚・末子小学生	234	44.9▲	29.9	78.2	38.0	31.6	20.1	50.4	22.6	14.5	0.4	2.1▲
既婚・末子中学生、高校生	270	51.1	23.3▲	53.3	33.0	34.8	31.1	48.5	21.9	16.7	0.4	3.3▲
既婚・末子短大・大学・大学院生	120	61.7	35.8	13.3▲	27.5	23.3	30.8	16.7	16.7	12.5	0.8	5.0▲
既婚・子どもすべて卒業（未婚）	609	61.9	27.9	2.6▲	14.4▲	11.7▲	16.4	3.0▲	14.0▲	6.2▲	1.8	19.5
既婚・子どもすべて卒業（既婚）	595	61.5	26.6▲	2.4▲	8.1▲	2.7▲	2.5▲	2.9▲	8.4▲	2.5▲	1.7	27.9

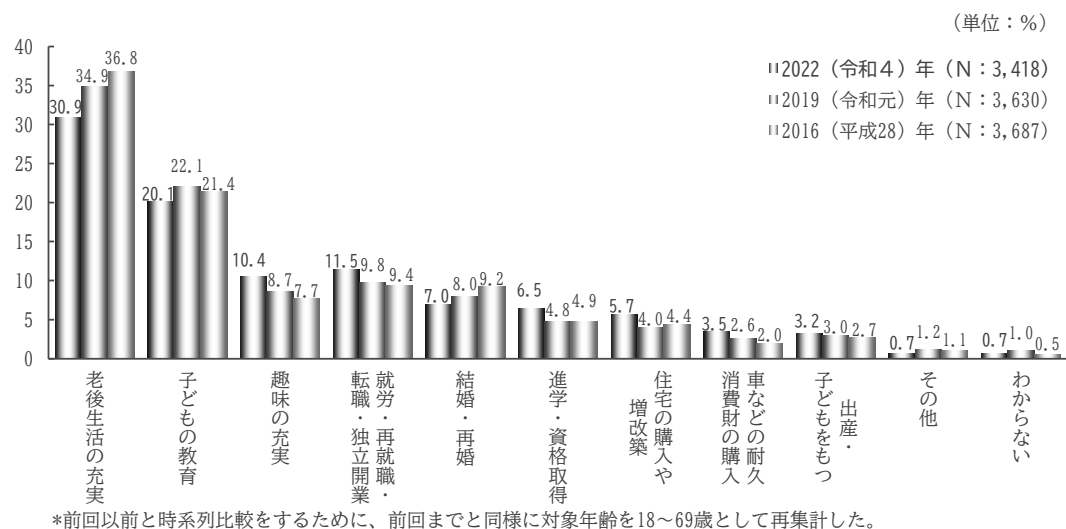
(2) 最も重要なライフイベント

最も重要なライフイベントについてみると、「老後生活の充実」が37.1%で最も高く、以下「子どもの教育」(17.0%)、「趣味の充実」(11.5%)、「就労・再就職・転職・独立開業」(10.0%)、「結婚・再婚」(6.2%)の順となっている。(図表 I-11)

<図表 I-11> 最も重要なライフイベント



【参考】時系列でみると、「老後生活の充実」の減少傾向が続いている。



性別にみると、男性で「趣味の充実」、「就労・再就職・転職・独立開業」、「車などの耐久消費財の購入」が、女性で「老後生活の充実」、「進学・資格取得」が、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、男女ともに「結婚・再婚」は20歳代で、「出産・子どもをもつ」は20～30歳代で、「子どもの教育」は30～40歳代で、「老後生活の充実」は50～70歳代で、それぞれ高くなっている。(図表 I-12)

<図表 I-12> 最も重要なライフイベント〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	老後生活の充実	子どもの教育	趣味の充実	就労・独立開業・転職	結婚・再婚	進学・資格取得	住宅の購入や増改	車などの耐久消費財の購入	ついでに子どもをもつ	その他	わからない
男性	1,760	35.2	16.0	12.9	11.2	6.9	4.7	5.2	4.0	2.2	0.8	0.9
20歳代	218	3.2▲	9.6▲	12.4	31.7	23.4	5.5	4.1	4.6	5.0	0.0	0.5
30歳代	251	6.8▲	44.2	12.0	8.4	8.4	4.0	8.4	3.6	4.0	0.0	0.4
40歳代	340	17.9▲	32.9	12.9	9.7	5.6	9.1	4.4	3.8	2.1	0.0	1.5
50歳代	301	42.9	9.3▲	10.0	13.0	5.0	4.0	7.0	4.7	2.3	0.7	1.3
60歳代	339	60.8	1.8▲	14.5	5.9▲	2.9▲	1.5▲	5.0	4.7	0.6▲	1.2	1.2
70歳代	284	69.7	1.4▲	15.8	2.1▲	1.4▲	1.1▲	3.2	2.1	0.4▲	2.8	0.0
女性	2,295	38.5	17.8	10.5	9.0	5.6	6.3	5.2	2.4	3.1	1.1	0.4
20歳代	202	5.0▲	16.3	12.9	19.8	19.8	4.0	5.9	2.5	13.9	0.0	0.0
30歳代	350	8.9▲	42.9	7.7	11.4	6.9	6.6	6.3	1.7	6.9	0.3	0.6
40歳代	496	22.4▲	36.7	5.8▲	7.9	2.0▲	15.3	4.8	2.0	2.0	0.4	0.6
50歳代	456	47.6	8.6▲	10.7	10.5	4.8	4.8	5.9	4.8	0.4▲	1.3	0.4
60歳代	407	65.1	1.0▲	10.1	4.9▲	5.2	1.2▲	6.1	2.7	1.5▲	2.0	0.2
70歳代	353	70.8	0.3▲	18.4	1.7▲	2.3▲	0.6▲	2.5▲	0.6▲	0.3▲	2.3	0.3

性・ライフステージ別にみると、男女とも「子どもの教育」は“既婚・末子未就学児”から“既婚・末子中学生、高校生”の層で高く、「進学・資格取得」は“既婚・末子小学生”から“既婚・末子中学生、高校生”の層でそれぞれ高くなっている。また、「老後生活の充実」は男性の“既婚・子どもなし”および男女とも“既婚・子どもすべて卒業（未婚）”から“既婚・子どもすべて卒業（既婚）”で高くなっている。（図表 I-13）

<図表 I-13> 最も重要なライフイベント〔性・ライフステージ別〕

(単位：%)

	N	老後生活の充実	子どもの教育	趣味の充実	職就・独立・再就職・転職	結婚・再婚	進学・資格取得	築住宅の購入や増改	財車などの購入や耐久消費	つ出産・子どもをも	その他	わからない
男性	1,760	35.2	16.0	12.9	11.2	6.9	4.7	5.2	4.0	2.2	0.8	0.9
未婚	455	15.8▲	1.1▲	16.9	27.5	19.3	5.7	5.1	5.9	1.5	0.2	0.9
既婚・子どもなし	132	49.2	3.8▲	16.7	4.5▲	0.8▲	0.8▲	7.6	3.8	12.1	0.0	0.8
既婚・末子未就学児	189	1.1▲	74.6	4.2▲	2.1▲	0.5▲	5.8	5.3	2.6	3.7	0.0	0.0
既婚・末子小学生	160	13.8▲	48.8	9.4	6.9	1.9▲	12.5	2.5	1.9	1.3	0.0	1.3
既婚・末子中学生、高校生	125	24.8▲	32.0	6.4▲	10.4	4.0	13.6	4.0	0.8	0.8	0.0	3.2
既婚・末子短大・大学・大学院生	66	42.4	4.5▲	9.1	16.7	4.5	4.5	10.6	6.1	1.5	0.0	0.0
既婚・子どもすべて卒業（未婚）	311	58.5	1.0▲	13.8	5.8▲	6.4	0.3▲	6.8	5.5	0.6▲	1.0	0.3
既婚・子どもすべて卒業（既婚）	303	69.6	2.0▲	13.9	2.6▲	0.3▲	0.7▲	3.6	2.6	1.0	3.0	0.7
女性	2,295	38.5	17.8	10.5	9.0	5.6	6.3	5.2	2.4	3.1	1.1	0.4
未婚	350	20.6▲	1.7▲	15.7	23.4	18.3	5.7	5.4	3.7	4.9	0.3	0.3
既婚・子どもなし	151	45.7	2.0▲	15.2	4.6	0.0▲	0.0▲	9.3	3.3	17.9	2.0	0.0
既婚・末子未就学児	261	5.4▲	62.5	3.1▲	6.9	2.3▲	6.9	6.1	1.1	5.0	0.0	0.8
既婚・末子小学生	229	7.9▲	59.0	3.1▲	7.4	0.9▲	15.3	3.9	1.3	1.3	0.0	0.0
既婚・末子中学生、高校生	261	18.8▲	32.6	4.6▲	10.7	3.4	23.4	3.4	1.9	0.4▲	0.4	0.4
既婚・末子短大・大学・大学院生	114	42.1	8.8▲	10.5	16.7	4.4	3.5	7.0	4.4	1.8	0.9	0.0
既婚・子どもすべて卒業（未婚）	490	60.2	0.4▲	12.4	6.1▲	7.8	0.6▲	5.7	3.3	1.0▲	1.8	0.6
既婚・子どもすべて卒業（既婚）	429	73.2	0.7▲	14.0	1.4▲	0.9▲	0.9▲	4.0	1.2	0.9▲	2.3	0.5

(3) 最も重要なライフイベントに対する経済的準備状況

最も重要なライフイベントに対する現在の経済的準備状況を捉えるため、以下のように尋ねた。

今お答えいただいた、最も重要なライフイベントに対する現在の経済的準備状況について、あなたご自身は、どのくらい達成できていると思いますか。

- (ア) 順調に準備できている
- (イ) ある程度準備できている
- (ウ) あまり準備ができていない
- (エ) まったく準備ができていない
わからない

その結果、「準備できている」（“順調に準備できている”と“ある程度準備できている”の合計）は49.8%、「準備ができていない」（“あまり準備ができていない”と“まったく準備ができていない”の合計）は48.8%となっている。

「準備できている」は“趣味の充実”“進学・資格取得”で6割、“子どもの教育”“車などの耐久消費財の購入”“出産・子どもをもつ”で5割を超えて高くなっている。（図表 I-14）

<図表 I-14> 最も重要なライフイベントに対する経済的準備状況

（単位：％）

	N	で順調に準備	できている準備	準備できている	わからない	で準備できていない	であまり準備がない	でまったく準備がない
全体	4,031	7.9	41.9	49.8	1.4	48.8	37.0	11.8
老後生活の充実	1,503	5.8	40.8	46.6	1.4	52.0	39.1	13.0
子どもの教育	691	7.7	51.8	59.5	0.6	39.9	34.6	5.4
趣味の充実	467	14.8	46.3	61.0	2.1	36.8	30.2	6.6
就労・再就職・転職・独立開業	404	5.0	30.9	35.9	1.2	62.9	47.8	15.1
結婚・再婚	250	7.2	27.2	34.4	2.4	63.2	39.2	24.0
進学・資格取得	227	9.7	55.1	64.8	0.9	34.4	27.8	6.6
住宅の購入や増改築	212	5.2	35.4	40.6	0.9	58.5	43.4	15.1
車などの耐久消費財の購入	127	11.8	42.5	54.3	1.6	44.1	28.3	15.7
出産・子どもをもつ	111	14.4	36.0	50.5	1.8	47.7	30.6	17.1
その他	39	15.4	41.0	56.4	7.7	35.9	17.9	17.9

*集計対象は18～79歳

3. 生活上の不安と経済的準備状況

(1) 生活上の不安項目

日ごろの生活や将来に向けて不安を感じていることを捉えるため、以下のように尋ねた。

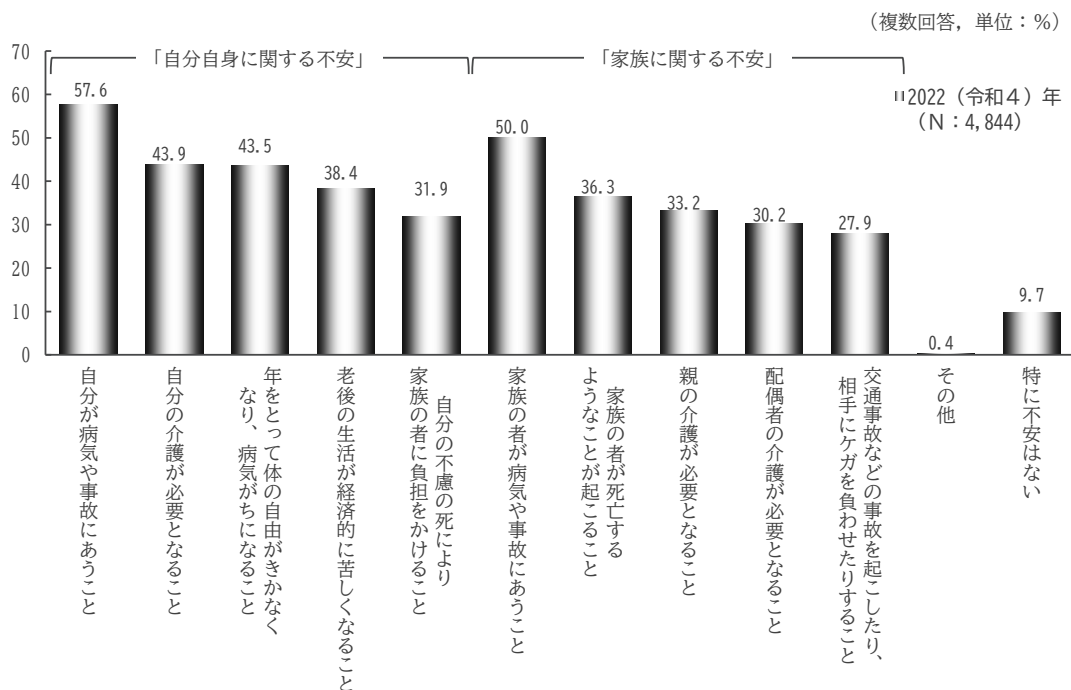
あなたは、日ごろの生活や将来に向けて、どのような点に不安をお持ちですか。この中からいくつでもお選びください。

それでは、今お答えいただいた中で、最も不安な点を1つだけお選びください。

- (ア) 自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること
- (イ) 家族の者が死亡するようなことが起こること
- (ウ) 自分が病気や事故にあうこと
- (エ) 家族の者が病気や事故にあうこと
- (オ) 自分の介護が必要となること
- (カ) 親の介護が必要となること
- (キ) 配偶者の介護が必要となること
- (ク) 年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること
- (ケ) 老後の生活が経済的に苦しくなること
- (コ) 交通事故などの事故を起こしたり、相手にケガを負わせたりすること
- (サ) その他
- 特に不安はない

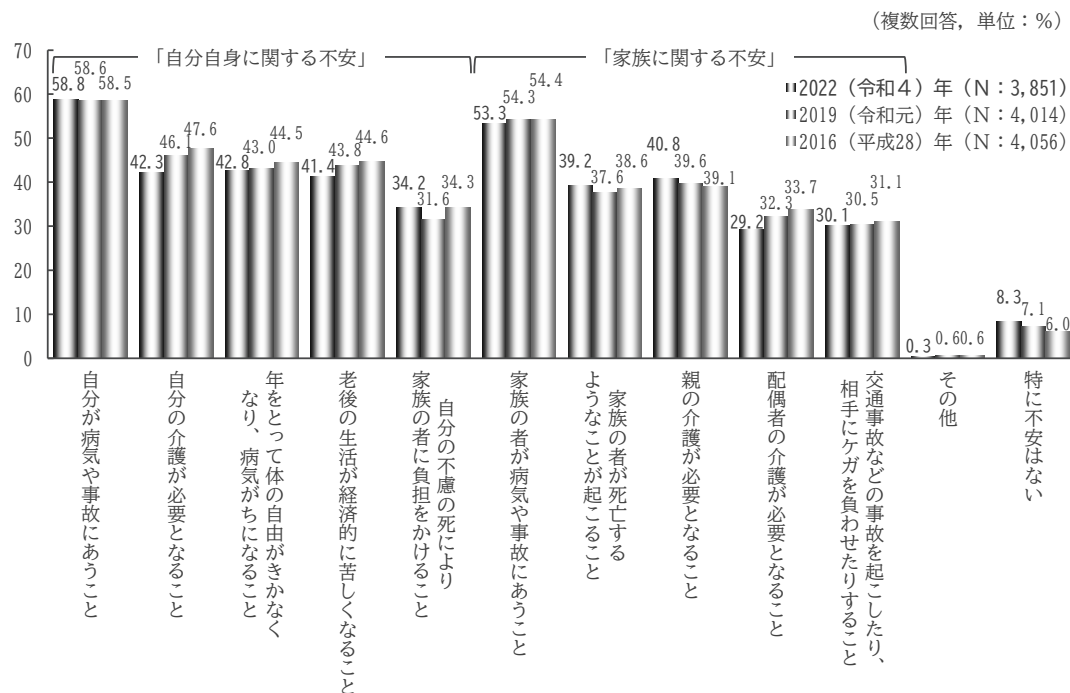
その結果、自分自身に関する不安については、「自分が病気や事故にあうこと」が 57.6%で最も高く、以下「自分の介護が必要となること」(43.9%)、「年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること」(43.5%) の順となっている。また、家族に関する不安項目についてみると、「家族の者が病気や事故にあうこと」(50.0%) が最も高く、「家族の者が死亡するようなことが起こること」(36.3%)、「親の介護が必要となること」(33.2%) の順となっている。(図表 I-15)

<図表 I-15> 生活上の不安項目



*集計対象は18~79歳

【参考】前回と比較すると、「自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること」が 2.6 ポイント増加し、「自分の介護が必要となること」が 3.8 ポイント、「配偶者の介護が必要になること」が 3.1 ポイント、それぞれ減少している。



*前回以前と時系列比較をするために、前回までと同様に対象年齢を18～69歳として再集計した。

性別にみると、多くの項目で女性の方が高くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも「自分の介護が必要となること」、「年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること」は概ね高齢層ほど高く、男女とも「自分が病気や事故にあうこと」は40歳代で、「自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること」は30～50歳代で、それぞれ高くなっている。また、「家族の者が死亡するようなことが起こること」は男性20～30歳代、女性30～40歳代で高くなっている。(図表 I-16)

<図表 I-16> 生活上の不安項目〔性・年齢別〕

(複数回答, 単位: %)

	N	自分自身に関する不安					家族に関する不安					その他	特に不安はない
		自分が病気や事故にあうこと	自分の介護が必要となること	年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること	老後の生活が経済的に苦しくなること	自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること	家族の者が病気や事故にあうこと	家族の者が死亡するようなことが起こること	親の介護が必要となること	配偶者の介護が必要となること	交通事故などの事故を起こしたり、相手にケガを負わせたこと		
男性	2,141	56.1	40.1	40.6	33.5	32.1	45.1	31.4	29.5	25.3	25.6	0.3	11.6
20歳代	235	48.9▲	20.0▲	25.5▲	27.7▲	24.3▲	45.1	37.9	36.2	6.8▲	29.8	0.4	14.9
30歳代	275	58.5	32.7▲	32.4▲	33.5	38.2	49.1	40.0	41.5	21.8	34.2	0.0	10.5
40歳代	375	60.8	34.9▲	38.1	37.1	41.1	48.0	34.1	46.7	18.9▲	25.3	0.3	8.3▲
50歳代	358	57.5	48.3	48.3	46.9	39.1	46.6	33.8	45.5	29.9	27.1	0.0	8.4▲
60歳代	422	55.7	49.3	47.6	34.1	28.2	42.7	27.5	17.3▲	29.9	22.0	0.2	11.4
70歳代	447	53.7	46.3	43.8	23.9▲	24.4▲	41.2	20.6▲	3.8▲	35.8	19.5▲	0.9	15.9
女性	2,703	58.7	46.9	45.9	42.3	31.7	54.0	40.3	36.1	34.2	29.8	0.5	8.2
20歳代	210	52.9	22.4▲	24.3▲	37.1	24.8▲	58.6	44.3	40.5	11.0▲	34.8	0.5	12.9
30歳代	366	61.5	35.5▲	38.0▲	44.3	36.3	68.0	49.7	51.4	26.5▲	37.4	0.3	6.0
40歳代	534	65.2	43.8	45.7	50.9	39.5	62.2	47.9	63.7	34.8	35.0	0.0	3.4▲
50歳代	508	62.2	53.9	52.2	49.6	36.8	58.9	42.5	49.4	44.1	34.6	0.4	5.1▲
60歳代	505	57.2	57.0	53.1	42.8	29.9	50.5	34.9▲	16.2▲	42.0	23.8▲	1.0	8.7
70歳代	546	51.6▲	53.1	48.7	29.3▲	21.8▲	34.2▲	28.8▲	3.7▲	33.2	19.6▲	0.7	14.5

性・ライフステージ別にみると、「自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること」は男性では「既婚・末子未就学児」から「既婚・末子短大・大学・大学院生」で、女性では「既婚・末子未就学児」から「既婚・末子中学生、高校生」の層で高くなっている。また、「自分が病気や事故にあうこと」は男性では「既婚・末子小学生」で、女性では「既婚・末子小学生」および「既婚・末子中学生、高校生」で高く、「自分の介護が必要となること」、「年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること」は男女とも「既婚・子どもすべて卒業（未婚）」、「既婚・子どもすべて卒業（既婚）」で高くなっている。また、「親の介護が必要となること」は男女とも「未婚」、「既婚・末子未就学児」から「既婚・末子短大・大学・大学院生」の層で高くなっている。（図表 I-17）

<図表 I-17> 生活上の不安項目〔性・ライフステージ別〕

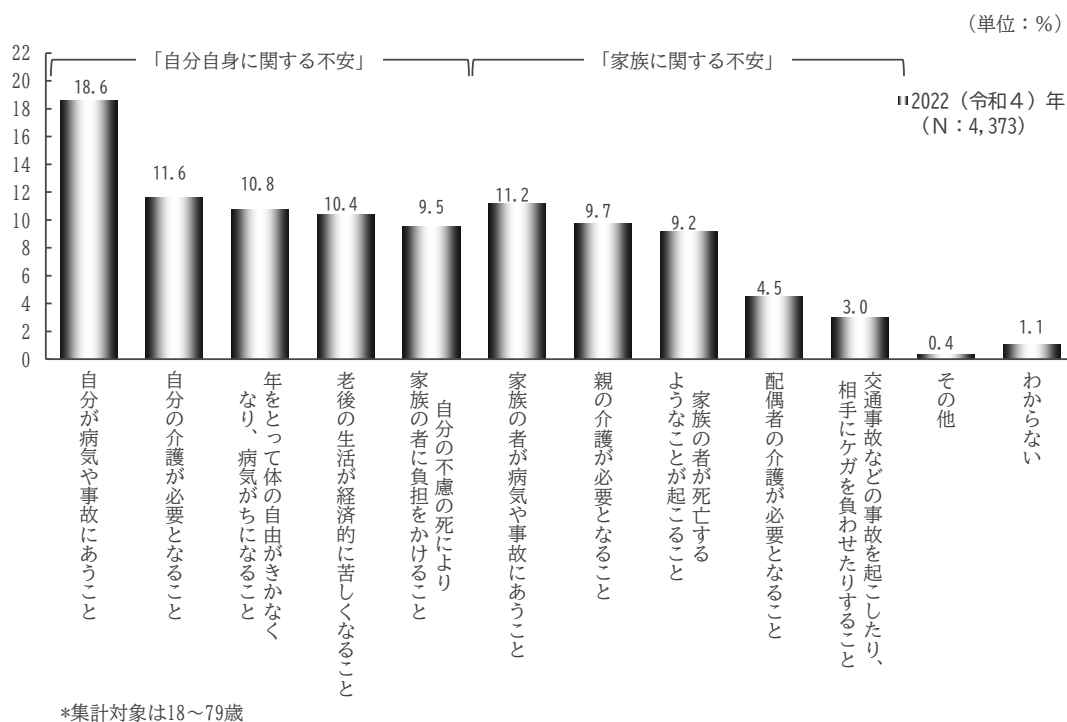
(複数回答, 単位: %)

	N	自分自身に関する不安					家族に関する不安					その他	特に不安はない
		自分が病気や事故にあうこと	自分の介護が必要となること	く年をとって病気がちになること	老後の生活が経済的に苦しくなること	自分に不慮の死により家族の者に負担をかけること	家族の者が病気や事故にあうこと	家族の者が死亡するようないざこざが起こること	親の介護が必要となること	配偶者の介護が必要となること	りたり、事故などのケガを負わせたり、事故を起こすこと		
男性	2,141	56.1	40.1	40.6	33.5	32.1	45.1	31.4	29.5	25.3	25.6	0.3	11.6
未婚	576	51.4▲	28.0▲	32.8▲	31.6	20.5▲	34.9▲	30.6	34.5	4.5▲	26.7	0.2	14.2
既婚・子どもなし	153	63.4	47.7	47.1	43.1	37.9	48.4	35.9	31.4	34.6	28.1	0.7	7.8
既婚・末子未就学児	194	61.9	37.1	37.1	33.5	46.4	57.2	42.3	41.2	25.8	33.0	0.0	9.8
既婚・末子小学生	165	65.5	36.4	35.8	33.9	52.1	54.5	40.6	47.9	26.7	24.2	0.0	6.7▲
既婚・末子中学生、高校生	136	58.8	40.4	43.4	41.2	47.1	48.5	36.8	50.7	30.9	30.1	0.7	8.1
既婚・末子短大・大学・大学院生	71	62.0	50.7	36.6	46.5	45.1	52.1	32.4	49.3	38.0	23.9	0.0	9.9
既婚・子どもすべて卒業（未婚）	401	53.4	48.9	48.1	34.2	30.9	47.1	26.9▲	20.2▲	35.7	21.9	0.2	13.0
既婚・子どもすべて卒業（既婚）	418	54.8	46.7	45.7	27.8▲	26.8▲	45.5	25.6▲	9.1▲	35.6	23.2	0.2	12.4
女性	2,703	58.7	46.9	45.9	42.3	31.7	54.0	40.3	36.1	34.2	29.8	0.5	8.2
未婚	410	54.4	33.9▲	36.1▲	41.0	22.9▲	48.5▲	36.1	50.0	4.9▲	26.8	0.5	11.0
既婚・子どもなし	175	57.7	47.4	46.9	45.1	30.3	50.9	43.4	40.6	41.7	31.4	1.1	9.1
既婚・末子未就学児	266	63.9	39.5▲	42.9	45.9	43.6	73.3	51.9	48.9	31.6	41.0	0.8	3.8▲
既婚・末子小学生	234	65.4	40.6▲	41.5	52.1	40.2	68.8	51.7	57.3	42.3	36.8	0.0	4.7▲
既婚・末子中学生、高校生	270	64.8	39.6▲	38.1▲	42.2	37.4	61.9	47.4	57.4	40.4	37.0	0.0	3.0▲
既婚・末子短大・大学・大学院生	120	58.3	49.2	45.0	47.5	30.8	60.0	37.5	50.0	41.7	28.3	0.8	5.0
既婚・子どもすべて卒業（未婚）	609	55.2▲	56.0	54.0	45.2	35.0	51.1	37.3	26.4▲	39.4	29.9	0.8	8.2
既婚・子どもすべて卒業（既婚）	595	58.2	55.5	50.8	33.6▲	24.0▲	43.7▲	33.6▲	9.2▲	40.8	20.5▲	0.2	12.1

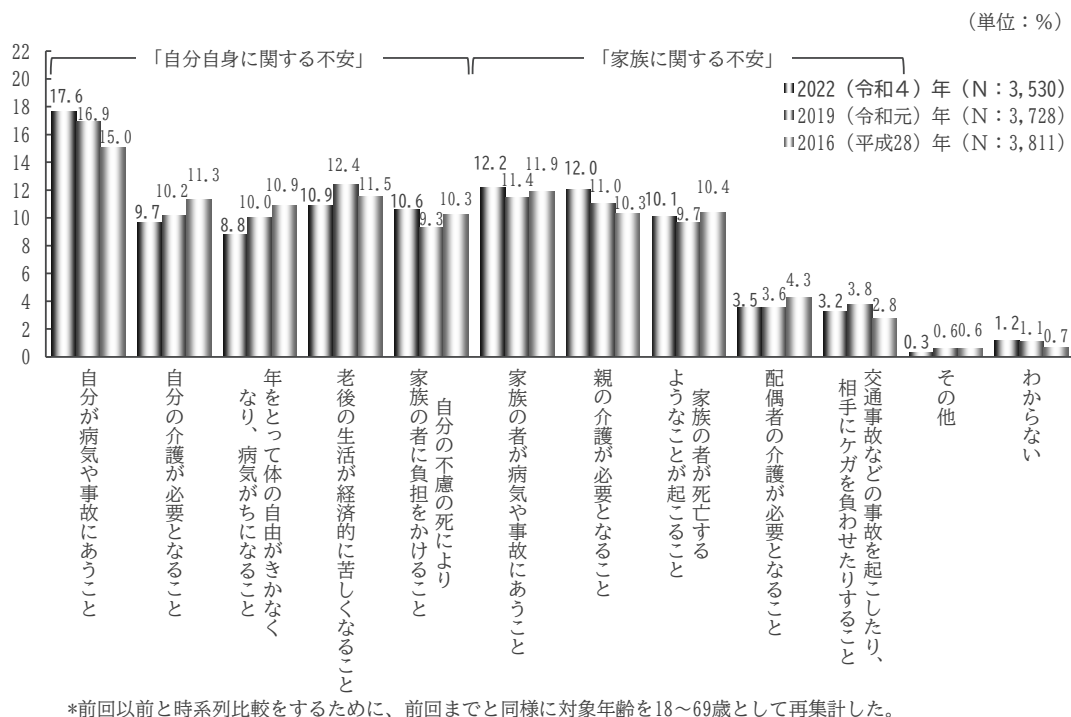
(2) 最も不安な生活上の不安項目

最も不安に感じていることについてみると、自分自身に関する不安については「自分が病気や事故に会うこと」が18.6%、「自分の介護が必要となること」が11.6%、「年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること」が10.8%となっている。また、家族に関する不安については「家族の者が病気や事故に会うこと」が11.2%、「親の介護が必要となること」が9.7%、「家族の者が死亡するようなことが起こること」が9.2%となっている。自分自身に関する不安として「自分が病気や事故に会うこと」が他の項目に比べ高くなっている以外は、大きな差はみられなかった。(図表 I-18)

<図表 I-18> 最も不安な生活上の不安項目



【参考】時系列でみると、「自分が病気や事故に会うこと」で増加傾向が続いている。



性別にみると、男性で「自分が病気や事故にあうこと」、「自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること」が、女性で「家族の者が病気や事故にあうこと」、「親の介護が必要となること」、「家族の者が死亡するようなことが起こること」、「配偶者の介護が必要となること」が、それぞれ高くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも「家族の者が死亡するようなことが起こること」は20～30歳代で、「自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること」は30～40歳代で、「老後の生活が経済的に苦しくなること」は50歳代で、「自分の介護が必要となること」、「年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること」は60～70歳代で、それぞれ高くなっている。(図表 I-19)

<図表 I-19> 最も不安な生活上の不安項目〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	自分自身に関する不安					家族に関する不安					その他	わからない
		自分が病気や事故にあうこと	自分の介護が必要となること	ななくたり、病気がちになること	年をとって、体の自由がきかなくなる生活が経済的に苦しくなること	老後の生活が経済的に苦しくなること	と族の者に負担をかけること	あ家族の者が病気や事故にあうこと	と親の介護が必要となること	な家族の者が死亡すること	る配偶者の介護が必要となること		
男性	1,892	22.3	10.7	10.8	9.8	12.7	9.7	8.6	7.0	3.4	3.4	0.3	1.2
20歳代	200	19.5	3.0▲	5.0▲	7.5	13.0	13.5	14.0	13.5	0.0▲	10.0	0.5	0.5
30歳代	246	22.8	5.7▲	4.5▲	6.9	18.3	9.3	11.0	12.2	2.4	5.7	0.0	1.2
40歳代	344	25.3	5.2▲	7.0▲	10.5	18.9	8.1	13.7	8.4	0.3▲	1.5▲	0.3	0.9
50歳代	328	19.5	11.3	7.9	15.2	12.8	11.3	12.2	4.9	1.2▲	0.9▲	0.0	2.7
60歳代	374	22.2	15.2	17.1	11.2	9.4▲	5.9▲	5.1▲	3.7▲	6.4	2.1	0.0	1.6
70歳代	376	23.7	18.4	18.4	6.9▲	7.2▲	10.9	0.0▲	2.9▲	7.7	2.7	1.1	0.3
女性	2,481	15.8	12.3	10.8	10.8	7.1	12.4	10.6	10.8	5.4	2.7	0.4	0.9
20歳代	183	11.5	2.7▲	2.7▲	7.7	8.7	23.0	14.2	20.8	1.1▲	7.1	0.5	0.0
30歳代	344	12.2▲	4.9▲	1.7▲	9.3	9.9	19.5	16.9	19.2	2.9▲	2.6	0.3	0.6
40歳代	516	15.1	7.9▲	6.0▲	9.9	10.3	14.1	18.6	11.2	3.5▲	2.1	0.0	1.2
50歳代	482	12.9▲	13.3	10.8	13.7	7.3	12.2	11.8	7.3▲	6.2	2.7	0.4	1.5
60歳代	461	17.8	17.4	17.4	13.0	4.8▲	8.9▲	4.6▲	6.3▲	6.3	2.2	0.7	0.9
70歳代	467	21.8	21.0	19.7	9.2	3.2▲	4.5▲	0.2▲	7.5▲	9.6	1.7	0.6	0.9

性・ライフステージ別にみると、男女とも「自分の介護が必要となること」、「年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること」は「既婚・子どもすべて卒業（未婚）」、「既婚・子どもすべて卒業（既婚）」で、「家族の者が死亡するようなことが起こること」は「未婚」および「末子未就学児」で、それぞれ高くなっている。また、「自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること」は男性では「既婚・末子未就学児」から「既婚・末子中学生、高校生」で、女性では「既婚・末子未就学児」および「既婚・末子中学生、高校生」で高くなっている。（図表 I-20）

<図表 I-20> 最も不安な生活上の不安項目〔性・ライフステージ別〕

	性	N	自分自身に関する不安					家族に関する不安					(単位：%)	
			自分が病気や事故にあうこと	自分の介護が必要となること	かななくなり、病気がちになること	年をとって体の自由がきかなくなり、生活が経済的に苦しくなること	老後の生活が経済的に苦しくなること	と族の者に不慮の死により家族の者に負担をかけること	あ家族の者が病気や事故にあうこと	と親の介護が必要となること	な家族の者が死亡すること	る配偶者の介護が必要となること	負わせたり、相手にケガを起すこと	交し事故などの事故を起すこと
男	性	1,892	22.3	10.7	10.8	9.8	12.7	9.7	8.6	7.0	3.4	3.4	0.3	1.2
未婚		494	22.7	8.9	8.9	11.3	6.9▲	10.5	12.8	9.5	0.0▲	7.7	0.2	0.6
既婚・子どもなし		141	28.4	9.9	9.9	7.1	11.3	7.1	11.3	7.1	4.3	1.4	0.7	1.4
既婚・末子未就学児		175	22.3	4.6▲	4.6▲	5.1▲	26.3	9.1	10.3	12.6	1.1	2.3	0.0	1.7
既婚・末子小学生		154	21.4	8.4	3.2▲	7.1	24.7	9.1	12.3	10.4	1.9	0.6▲	0.0	0.6
既婚・末子中学生、高校生		125	15.2▲	4.8▲	6.4	12.0	23.2	11.2	14.4	6.4	0.8	1.6	0.8	3.2
既婚・末子短大・大学・大学院生		64	25.0	6.3	4.7	28.1	10.9	6.3	7.8	6.3	3.1	1.6	0.0	0.0
既婚・子どもすべて卒業（未婚）		349	20.6	14.3	17.2	8.9	10.6	9.5	5.4▲	3.7▲	6.3	1.7	0.3	1.4
既婚・子どもすべて卒業（既婚）		366	23.5	15.8	16.4	8.7	8.7▲	10.4	1.4▲	3.3▲	7.7	2.7	0.0	1.4
女	性	2,481	15.8	12.3	10.8	10.8	7.1	12.4	10.6	10.8	5.4	2.7	0.4	0.9
未婚		365	16.2	4.9▲	9.3	14.0	4.7▲	12.1	17.8	14.5	0.8▲	4.7	0.3	0.8
既婚・子どもなし		159	15.1	12.6	11.9	8.8	5.0	9.4	11.9	15.1	4.4	3.8	0.6	1.3
既婚・末子未就学児		256	10.9▲	7.0▲	2.7▲	5.5▲	13.3	22.7	9.4	21.5	3.1	2.7	0.8	0.4
既婚・末子小学生		223	10.3▲	4.9▲	4.0▲	10.3	9.9	20.6	16.1	14.3	5.8	2.2	0.0	1.3
既婚・末子中学生、高校生		262	16.4	7.3▲	3.8▲	9.2	12.2	15.3	18.3	9.5	4.6	2.7	0.0	0.8
既婚・末子短大・大学・大学院生		114	13.2	14.0	7.0	12.3	5.3	16.7	16.7	5.3▲	5.3	2.6	0.9	0.9
既婚・子どもすべて卒業（未婚）		559	15.4	16.1	16.5	13.4	6.6	8.8▲	7.0▲	5.7▲	6.3	2.5	0.7	1.1
既婚・子どもすべて卒業（既婚）		523	21.2	21.0	16.1	9.8	3.4▲	6.9▲	1.9▲	7.8▲	9.4	1.5	0.2	0.8

(3) 最も不安な生活上の不安項目の経済的準備状況

最も不安と感じている項目に対する現在の経済的準備状況を捉えるため、以下のように尋ねた。

今お答えいただいた、最も不安な点に対する現在の経済的準備状況について、あなたご自身は、どのくらい達成できていると思いますか。

- (ア) 順調に準備できている
- (イ) ある程度準備できている
- (ウ) あまり準備ができていない
- (エ) まったく準備ができていない
わからない

その結果、「準備できている」（「順調に準備できている」と「ある程度準備できている」の合計）は 35.1%、「準備できていない」（「あまり準備ができていない」と「まったく準備ができていない」の合計）は 62.4%となっている。

最も不安と感じている項目別にみると、「準備できている」は多くの項目で30%を超えているなか、「老後の生活が経済的に苦しくなること」は15.9%と最も低くなっている。（図表 I-21）

<図表 I-21> 最も不安な生活上の不安項目の経済的準備状況

(単位：%)

	N	順調に準備できている	ある程度準備できている	準備できている	わからない	準備ができていない	あまり準備ができていない	まったく準備ができていない	
全体	4,327	3.7	31.5	35.1	2.4	62.4	41.6	20.8	
自分自身に関する不安	自分が病気や事故にあうこと	814	3.8	40.3	44.1	2.6	53.3	38.7	14.6
	自分の介護が必要となること	508	3.1	36.0	39.2	2.4	58.5	40.6	17.9
	年をとって体の自由がきかなくなり、病気がちになること	471	3.6	33.8	37.4	1.5	61.1	41.0	20.2
	老後の生活が経済的に苦しくなること	453	0.4	15.5	15.9	1.3	82.8	47.2	35.5
	自分の不慮の死により家族の者に負担をかけること	416	5.5	35.3	40.9	1.7	57.5	39.2	18.3
家族に関する不安	家族の者が病気や事故にあうこと	491	3.1	34.2	37.3	3.3	59.5	43.6	15.9
	親の介護が必要となること	425	1.9	16.0	17.9	0.5	81.6	49.6	32.0
	家族の者が死亡するようなことが起こること	402	4.5	29.1	33.6	4.2	62.2	41.8	20.4
	配偶者の介護が必要となること	198	4.5	30.8	35.4	3.5	61.1	41.4	19.7
	交通事故などの事故を起こしたり、相手にケガを負わせたりすること	132	14.4	43.9	58.3	4.5	37.1	20.5	16.7
その他	17	0.0	11.8	11.8	29.4	58.8	41.2	17.6	

*集計対象は18～79歳

4. 生活保障等の経済的準備に対する意識

医療保障、死亡保障、老後保障といった生活保障等の経済的準備に対する意識・行動を捉えるため、2つの考え方や行動を示し、以下のような形式で尋ねた。

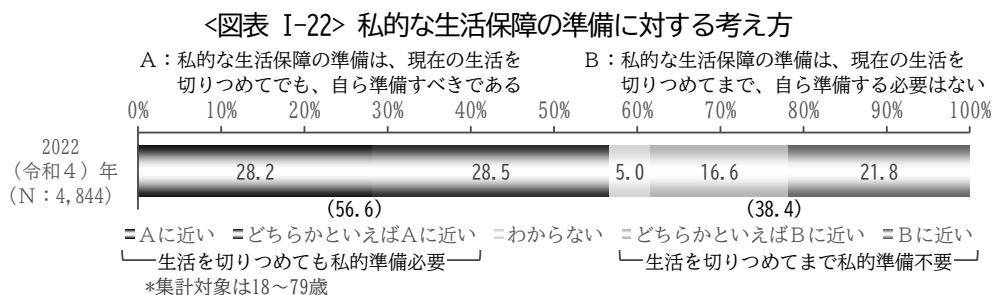
ここに、生活保障等の経済的準備について、A、B 2つの考え方や行動があげられています。あなたのお考えや行動は、A、B どちらに近いでしょうか。なお、ここで言う生活保障とは、老後の生活資金や万一の際、病気・ケガなど不測の事態のために経済的に備えることとします。

- (1) A：私的な生活保障の準備は、現在の生活を切りつめてでも、自ら準備すべきである
B：私的な生活保障の準備は、現在の生活を切りつめてまで、自ら準備する必要はない
 - (2) A：計画を立てたら、着実に実行する方だ
B：計画を立てても、ずるずると先延ばししてしまう方だ
 - (3) A：損失する可能性があっても高い利益を追求したい
B：損失する可能性があるなら利益が低くても安全な方がよい
- (ア) Aに近い (イ) どちらかといえばAに近い (ウ) どちらかといえばBに近い (エ) Bに近い わからない

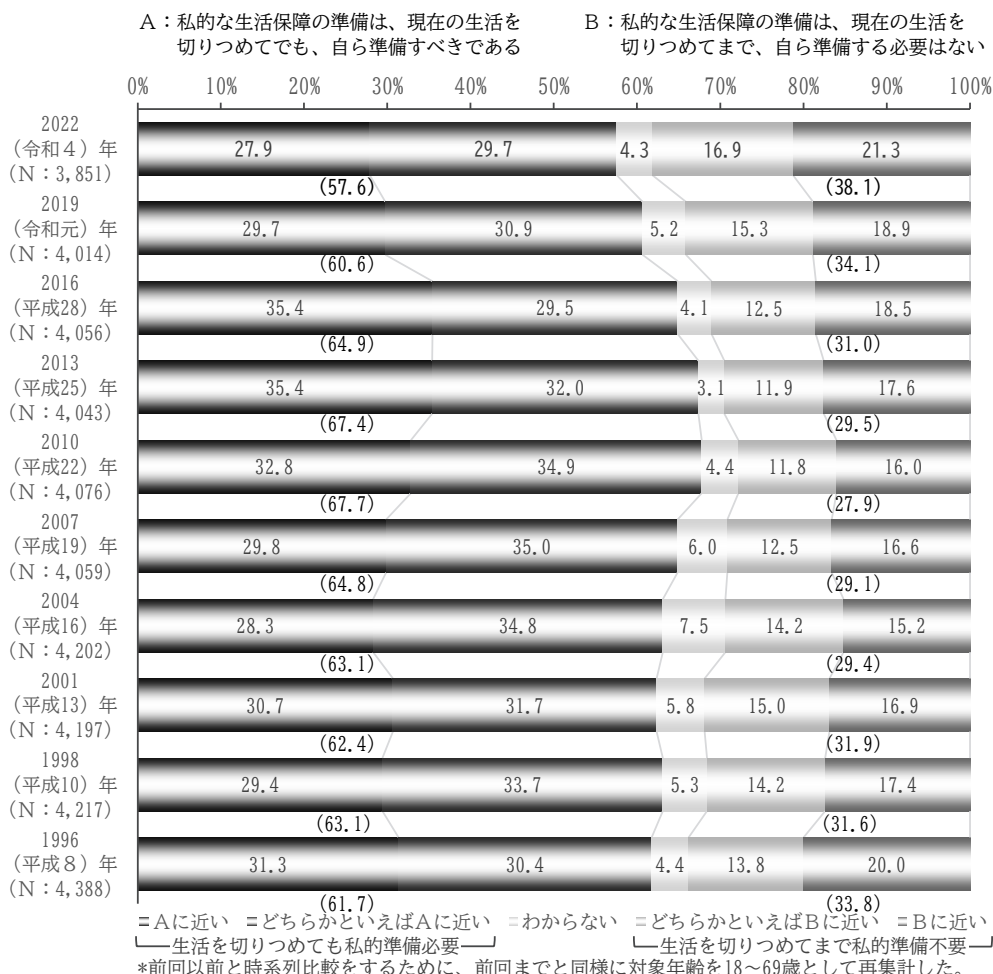
(1) 私的な生活保障の準備に対する考え方

私的な生活保障の準備に対する考え方をみると、「生活を切りつめても私的準備必要」（“Aに近い”と“どちらかといえばAに近い”と回答した人の合計）は 56.6%、「生活を切りつめてまで私的準備不要」（“どちらかといえばBに近い”と“Bに近い”と回答した人の合計）は 38.4%となっている。

（図表 I -22）



【参考】時系列でみると、「生活を切り詰めても私的準備必要」は2010（平成22）年以降減少傾向が続いており、「生活を切り詰めてまで私的準備不要」が2010（平成22）年以降、増加傾向が続いている。



性別にみると、女性で「生活を切り詰めても私的準備必要」が高くなっている。

性・年齢別にみると、「生活を切り詰めても私的準備必要」は女性50歳代で、「生活を切り詰めてまで私的準備不要」は男性20歳代で、それぞれ高くなっている。(図表I-23)

<図表 I-23> 私的な生活保障の準備に対する考え方〔性・年齢別〕

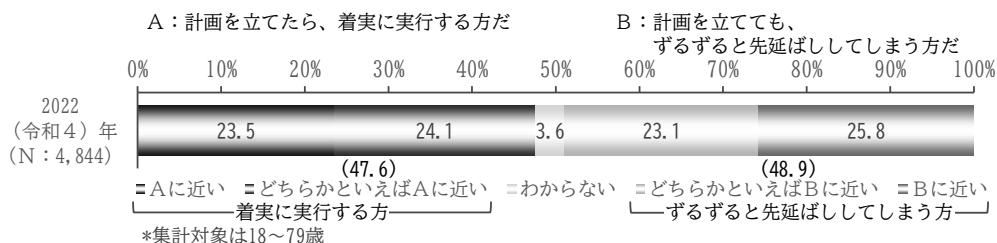
(単位：%)

	N	考え方						
		Aに近い	どちらかといえばAに近い	も私的準備を切詰め必要	わからない	生活を切り詰めても私的準備不要	どちらかといえばBに近い	Bに近い
男性	2,141	29.6	25.4	55.0	5.1	39.9	16.5	23.4
20歳代	235	20.4▲	27.7	48.1▲	3.8	48.1	21.3	26.8
30歳代	275	22.2▲	30.2	52.4	2.5▲	45.1	24.4	20.7
40歳代	375	29.1	25.6	54.7	5.9	39.5	18.7	20.8
50歳代	358	29.3	30.2	59.5	4.5	36.0	13.1	22.9
60歳代	422	39.6	19.0▲	58.5	4.7	36.7	12.8▲	23.9
70歳代	447	31.3	23.0	54.4	6.5	39.1	13.2▲	26.0
女性	2,703	27.0	30.9	57.9	4.8	37.2	16.6	20.6
20歳代	210	23.3	30.5	53.8	7.6	38.6	16.7	21.9
30歳代	366	22.4▲	32.8	55.2	3.0	41.8	19.7	22.1
40歳代	534	28.7	31.5	60.1	4.1	35.8	16.5	19.3
50歳代	508	28.3	36.0	64.4	2.2▲	33.5	14.0	19.5
60歳代	505	29.3	30.3	59.6	4.4	36.0	16.4	19.6
70歳代	546	27.5	24.5▲	52.0▲	8.4	39.6	17.0	22.5

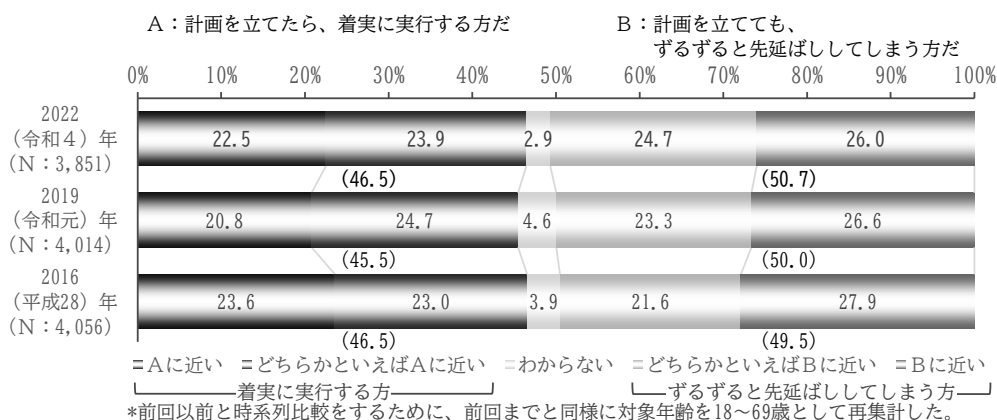
(2) 計画に対する実行性

計画に対する実行性があると考えているかをみると、「着実に実行する方」（“Aに近い”と“どちらかといえばAに近い”と回答した人の合計）は 47.6%、「ずるずると先延ばししてしまう方」（“どちらかといえばBに近い”と“Bに近い”と回答した人の合計）は 48.9%となっている。（図表 I-24）

<図表 I-24> 計画に対する実行性



【参考】前回と比較しても、大きな差異はみられない。



性・年齢別にみると、「着実に実行する方」は女性の70歳代で高く、「ずるずると先延ばししてしまう方」は男性の20歳代で高くなっている。（図表 I-25）

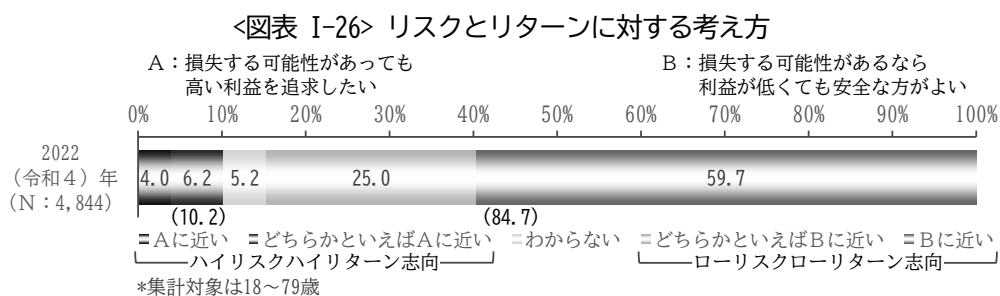
<図表 I-25> 計画に対する実行性〔性・年齢別〕

(単位: %)

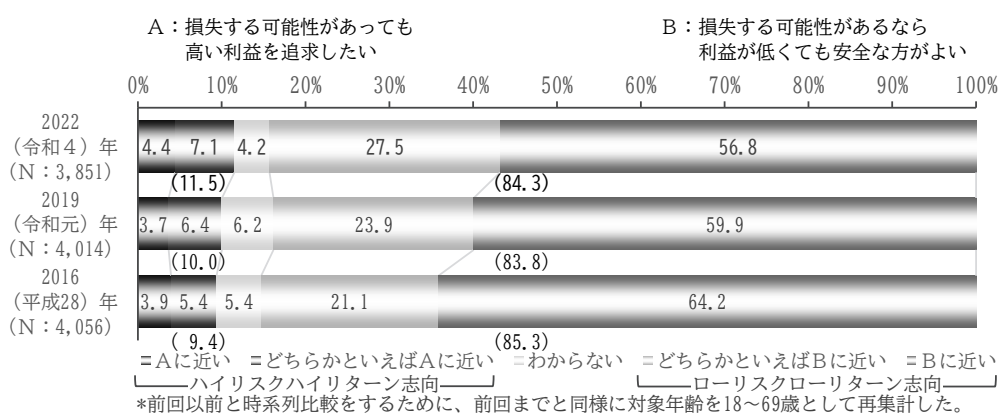
	N	Aに近い		着実に実行する方	わからない	ずるずると先延ばししてしまう方	Bに近い	
		Aに近い	AどちらかといえばAに近い				BどちらかといえばBに近い	Bに近い
男性	2,141	24.8	22.9	47.7	3.5	48.9	22.5	26.4
20歳代	235	19.1▲	23.0	42.1	2.6	55.3	28.5	26.8
30歳代	275	21.8	24.0	45.8	2.2	52.0	28.4	23.6
40歳代	375	26.1	22.9	49.1	3.7	47.2	24.8	22.4
50歳代	358	22.1	22.6	44.7	3.1	52.2	22.9	29.3
60歳代	422	28.0	23.2	51.2	2.8	46.0	17.8▲	28.2
70歳代	447	28.2	22.1	50.3	5.1	44.5▲	17.7▲	26.8
女性	2,703	22.5	25.0	47.5	3.6	48.9	23.6	25.3
20歳代	210	23.8	25.7	49.5	2.9	47.6	25.7	21.9
30歳代	366	19.9	24.3	44.3	2.5	53.3	23.8	29.5
40歳代	534	21.7	24.7	46.4	2.4	51.1	27.7	23.4
50歳代	508	19.5	25.8	45.3	2.8	52.0	25.2	26.8
60歳代	505	23.2	22.6	45.7	3.4	50.9	25.0	25.9
70歳代	546	26.7	26.4	53.1	7.1	39.7▲	16.5▲	23.3

(3) リスクとリターンに対する考え方

リスクとリターンに対する考え方をみると、「ハイリスクハイリターン志向」（「Aに近い」と「どちらかといえばAに近い」と回答した人の合計）は 10.2%、「ローリスクローリターン志向」（「どちらかといえばBに近い」と「Bに近い」と回答した人の合計）は 84.7%となっている。（図表 I-26）



【参考】時系列でみると、「ハイリスクハイリターン志向」は僅かながら増加傾向が続いている。



性別にみると、男性で「ハイリスクハイリターン志向」が14.3%と高く、女性で「ローリスクローリターン志向」が87.9%と高くなっている。

性・年齢別にみると、「ハイリスクハイリターン志向」は男性の20～30歳代、女性の20歳代で高くなっている。一方「ローリスクローリターン志向」は男性60～70歳代で高くなっている。(図表I-27)

<図表 I-27> リスクとリターンに対する考え方〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	ハイリスクハイリターン志向		わからない	ローリスクローリターン志向			
		Aに近い	Aどちらに近いかといえば		Bどちらに近いかといえば	Bに近い		
男性	2,141	5.7	8.5	14.3	5.1	80.6	26.0	54.6
20歳代	235	8.5	11.1	19.6	3.4	77.0	37.4	39.6▲
30歳代	275	9.8	14.9	24.7	4.7	70.5▲	26.5	44.0▲
40歳代	375	5.9	9.3	15.2	4.3	80.5	29.6	50.9
50歳代	358	4.2	9.2	13.4	3.9	82.7	28.5	54.2
60歳代	422	4.5	6.4	10.9▲	5.0	84.1	21.8▲	62.3
70歳代	447	3.8▲	4.0▲	7.8▲	7.8	84.3	17.4▲	66.9
女性	2,703	2.6	4.3	6.9	5.2	87.9	24.2	63.7
20歳代	210	5.7	7.1	12.9	4.8	82.4▲	25.7	56.7▲
30歳代	366	3.0	6.3	9.3	4.1	86.6	32.5	54.1▲
40歳代	534	3.0	4.7	7.7	3.2▲	89.1	31.3	57.9▲
50歳代	508	2.0	3.9	5.9	4.1	90.0	27.2	62.8
60歳代	505	2.8	4.4	7.1	4.4	88.5	19.2▲	69.3
70歳代	546	0.7▲	1.8▲	2.6▲	9.7	87.7	13.6▲	74.2

5. 金融・保険に関する知識

自分自身の金融・保険に関する知識がどの程度かと認識しているかを捉えるため、以下の形式で尋ねた。

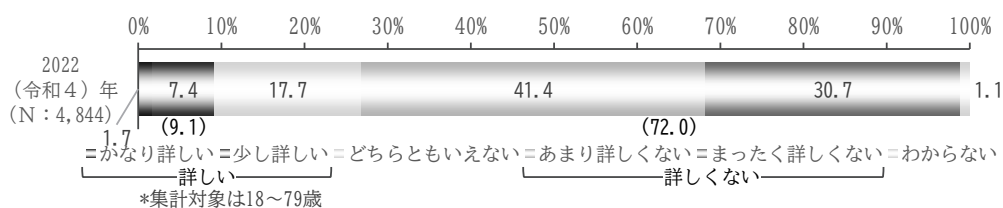
あなたは、金融や保険に関しての知識をどの程度お持ちですか。この中からあてはまるものをそれぞれ1つお選びください。

- (1) 金融について
- (2) 保険について
- (ア) かなり詳しい
- (イ) 少し詳しい
- (ウ) どちらともいえない
- (エ) あまり詳しくない
- (オ) まったく詳しくない
わからない

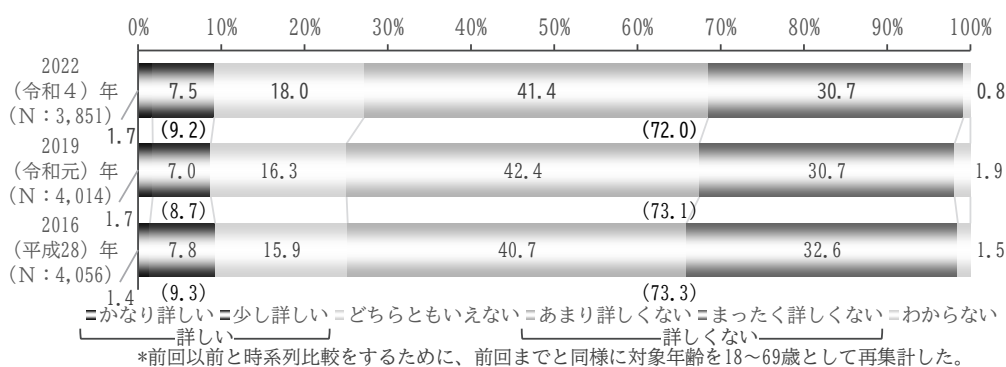
(1) 金融に関する知識の自己評価

金融に関する知識の自己評価をみると、「詳しい」（「かなり詳しい」と「少し詳しい」と回答した人の合計）は9.1%、「詳しくない」（「あまり詳しくない」と「まったく詳しくない」と回答した人の合計）は72.0%となっている。（図表 I-28）

<図表 I-28> 金融に関する知識の自己評価



【参考】前回と比較しても、大きな差異はみられない。



性別にみると、男性で「詳しい」が12.6%と高く、女性で「詳しくない」が77.4%と高くなっている。

性・年齢別にみると、「詳しい」は男性の50歳代で高く、「詳しくない」は男性20歳代、女性20～30歳代で高くなっている。(図表I-29)

<図表 I-29> 金融に関する知識の自己評価〔性・年齢別〕

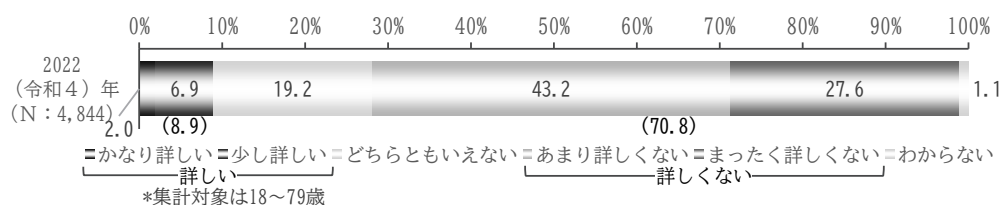
(単位：%)

	N	詳しい		どちらとも いえない	詳しくない			わからない	
		かなり詳しい	少し詳しい		あまり詳しくない	まったく詳しくない			
男性	2,141	2.5	10.1	12.6	21.3	65.2	40.6	24.7	0.8
20歳代	235	0.4▲	7.7	8.1▲	15.7▲	75.3	36.6	38.7	0.9
30歳代	275	2.2	9.5	11.6	21.5	66.2	42.9	23.3	0.7
40歳代	375	1.9	10.1	12.0	25.1	62.1	38.4	23.7	0.8
50歳代	358	4.5	11.7	16.2	23.5	60.1▲	38.3	21.8	0.3
60歳代	422	2.8	11.1	14.0	23.5	62.6	42.7	19.9▲	0.0▲
70歳代	447	2.5	10.1	12.5	17.9▲	67.6	43.0	24.6	2.0
女性	2,703	1.1	5.3	6.4	14.8	77.4	42.0	35.4	1.4
20歳代	210	1.0	3.3	4.3	7.6▲	87.1	42.9	44.3	1.0
30歳代	366	1.4	4.9	6.3	9.8▲	82.5	38.8	43.7	1.4
40歳代	534	1.1	5.1	6.2	15.2	78.1	42.9	35.2	0.6
50歳代	508	0.8	6.5	7.3	17.9	73.6▲	43.5	30.1▲	1.2
60歳代	505	1.4	5.7	7.1	17.8	74.3	44.0	30.3▲	0.8
70歳代	546	1.1	4.9	6.0	15.2	75.8	40.1	35.7	2.9

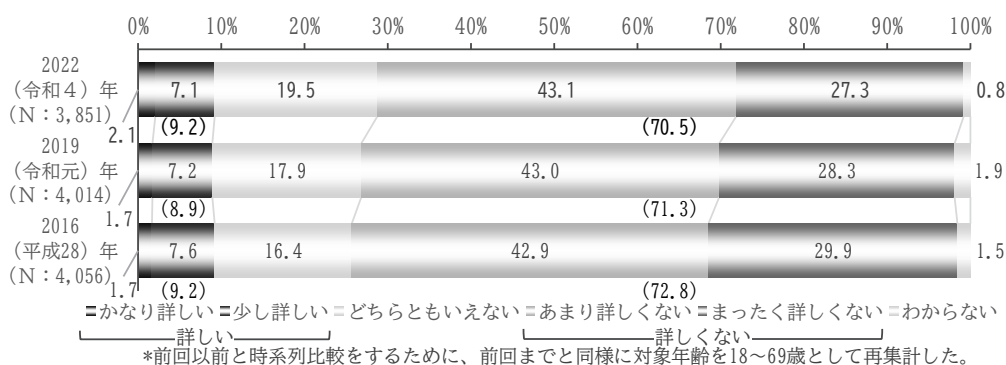
(2) 保険に関する知識の自己評価

保険に関しての知識の自己評価をみると、「詳しい」(「かなり詳しい」と「少し詳しい」と回答した人の合計)は8.9%、「詳しくない」(「あまり詳しくない」と「まったく詳しくない」と回答した人の合計)は70.8%となっている。(図表I-30)

<図表 I-30> 保険に関する知識の自己評価



【参考】前回と比較しても、大きな差異はみられない。



性別にみると、女性で「詳しくない」が73.1%と高くなっている。

性・年齢別にみると、「詳しい」は男性50歳代、女性60歳代で高くなっている。(図表 I-31)

<図表 I-31> 保険に関する知識の自己評価〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	詳しい		どちらとも いえない	詳しくない	あまり詳しくない		わからない	
		かなり詳しい	少し詳しい			まったく詳しくない			
男性	2,141	2.1	7.3	9.4	21.9	67.9	43.6	24.3	0.8
20歳代	235	0.9	3.0▲	3.8▲	16.2▲	79.1	38.3	40.9	0.9
30歳代	275	1.8	6.5	8.4	21.1	69.8	45.5	24.4	0.7
40歳代	375	1.9	8.3	10.1	24.0	65.1	42.9	22.1	0.8
50歳代	358	4.2	10.9	15.1	22.6	61.7▲	41.6	20.1▲	0.6
60歳代	422	2.4	7.1	9.5	25.8	64.7	46.9	17.8▲	0.0▲
70歳代	447	1.3	6.7	8.1	20.1	69.8	44.7	25.1	2.0
女性	2,703	1.9	6.7	8.6	17.0	73.1	42.9	30.2	1.3
20歳代	210	1.0	4.3	5.2	8.6▲	85.2	45.7	39.5	1.0
30歳代	366	1.9	7.7	9.6	11.2▲	77.9	39.9	38.0	1.4
40歳代	534	1.9	5.6	7.5	18.4	73.6	44.6	29.0	0.6
50歳代	508	2.2	7.3	9.4	22.2	67.3▲	41.5	25.8▲	1.0
60歳代	505	2.2	8.7	10.9	19.8	68.5▲	45.0	23.6▲	0.8
70歳代	546	2.0	5.7	7.7	15.8	73.8	42.5	31.3	2.7

(3) 生命保険や金融に関する知識量

生命保険や金融に関する知識量を捉えるため、以下の形式で尋ねた。

ここにあげられている生命保険や金融に関する説明は正しいと思いますか。それとも間違っていると思いますか。

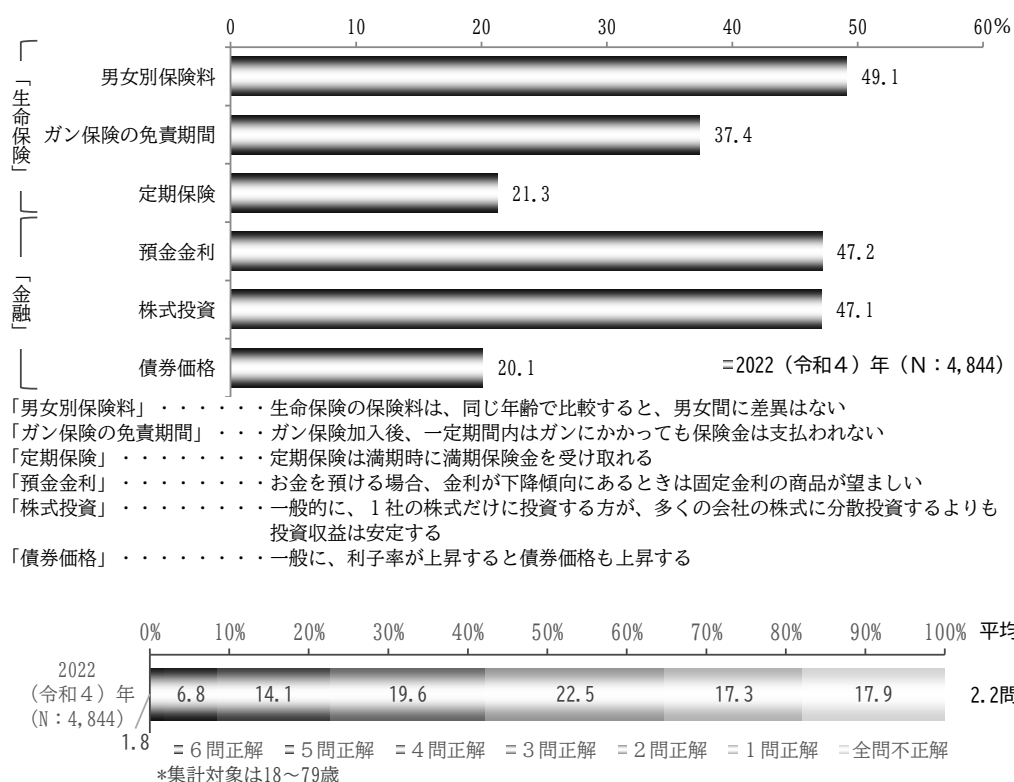
(1) 生命保険の保険料は、同じ年齢で比較すると、男女間に差異はない ……以下「男女別保険料」
 (2) 定期保険は満期時に満期保険金を受け取れる ……以下「定期保険」
 (3) ガン保険加入後、一定期間内はガンにかかっても保険金は支払われない ……以下「ガン保険の免責期間」
 (4) 一般的に、1社の株式だけに投資する方が、
 多くの会社の株式に分散投資するよりも投資収益は安定する ……以下「株式投資」
 (5) お金を預ける場合、金利が下降傾向にあるときは固定金利の商品が望ましい ……以下「預金金利」
 (6) 一般に、利子率が上昇すると債券価格も上昇する ……以下「債券価格」

(ア) 正しい
 (イ) 誤り
 わからない

それぞれの内容が正しいか誤りかを尋ねたところ、正答率は「男女別保険料」が49.1%で最も高く、以下「預金金利」(47.2%)、「株式投資」(47.1%)、「ガン保険の免責期間」(37.4%)の順となっている。

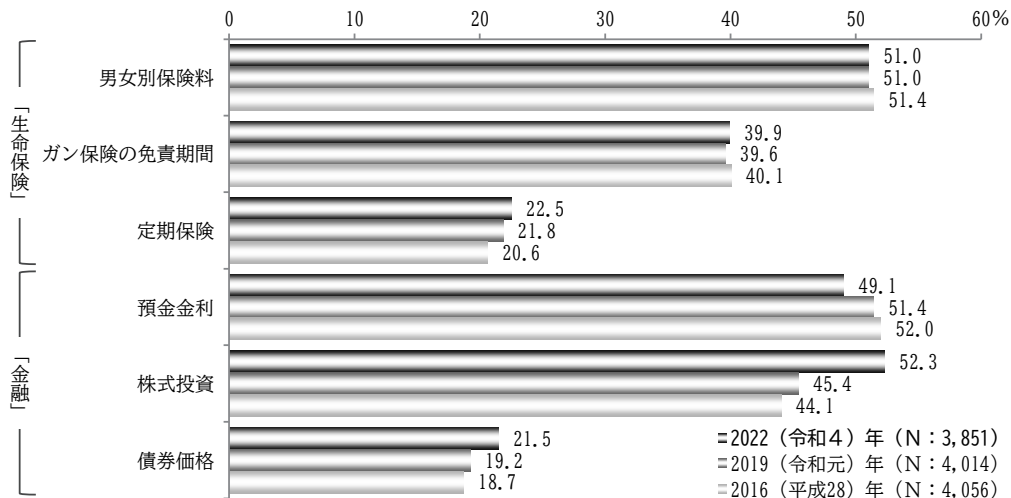
正答数の分布をみると、「2問正解」が22.5%で最も多く、以下「3問正解」(19.6%)、「全問不正解」(17.9%)、「1問正解」(17.3%)、「4問正解」(14.1%)の順となっている。(図表I-32)

<図表 I-32> 生命保険や金融に関する知識量



【参考】時系列でみると、「株式投資」、「債券価格」の正答率は上昇傾向が続いており、それぞれ前回に比べ6.9ポイント、2.3ポイント増加している。

正答数の分布について前回と比較しても大きな差異はみられない。



*前回以前と時系列比較をするために、前回までと同様に対象年齢を18~69歳として再集計した。

- 「男女別保険料」・・・生命保険の保険料は、同じ年齢で比較すると、男女間に差異はない
- 「ガン保険の免責期間」・・・ガン保険加入後、一定期間内はガンにかかっても保険金は支払われない
- 「定期保険」・・・定期保険は満期時に満期保険金を受け取れる
- 「預金金利」・・・お金を預ける場合、金利が下降傾向にあるときは固定金利の商品が望ましい
- 「株式投資」・・・一般的に、1社の株式だけに投資する方が、多くの会社の株式に分散投資するよりも投資収益は安定する
- 「債券価格」・・・一般に、利子率が上昇すると債券価格も上昇する



*前回以前と時系列比較をするために、前回までと同様に対象年齢を18~69歳として再集計した。

正答数の分布について性別にみると、男性で「6問正解」、「4問正解」が高く、女性で「全問不正解」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男性60歳代、女性40歳代で「5問正解」が高く、女性40～50歳代で「4問正解」が高くなっている。また、男性30～40歳代、女性40歳代で「3問正解」が高く、男女とも70歳代で「1問正解」、「全問不正解」が高くなっている。正答数の平均は男性では30～40歳代（2.6問）、女性では40歳代（2.5問）が最も高くなっている。（図表I-33）

<図表 I-33> 生命保険や金融に関する知識量〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	6問正解	5問正解	4問正解	3問正解	2問正解	1問正解	全問不正解	平均(問)
男 性	2,141	2.3	7.1	15.6	20.6	21.5	16.6	16.3	2.3
20歳代	235	0.4▲	8.5	15.7	16.6	21.3	17.4	20.0	2.2
30歳代	275	3.3	6.5	16.4	25.5	24.0	14.5	9.8▲	2.6
40歳代	375	2.7	7.7	18.1	25.3	22.7	12.8▲	10.7▲	2.6
50歳代	358	3.1	7.3	16.2	23.2	20.7	15.6	14.0	2.5
60歳代	422	1.7	10.0	18.0	20.9	21.1	14.2	14.2	2.5
70歳代	447	2.5	3.4▲	11.2▲	13.9▲	19.9	22.6	26.6	1.8
女 性	2,703	1.4	6.5	12.9	18.7	23.3	17.8	19.2	2.1
20歳代	210	1.4	3.8	7.6▲	23.3	23.8	15.7	24.3	1.9
30歳代	366	1.1	7.7	14.2	20.5	24.3	16.1	16.1	2.3
40歳代	534	1.3	10.1	15.9	21.7	23.2	15.2	12.5▲	2.5
50歳代	508	2.0	7.7	15.7	19.5	25.4	15.9	13.8▲	2.4
60歳代	505	2.0	4.8	13.5	19.0	24.2	20.2	16.4	2.2
70歳代	546	0.7	3.8▲	8.4▲	12.5▲	20.1▲	22.0	32.4	1.6

6. 失業・休業・廃業経験の有無

自身の失業・休業・廃業経験とその理由を捉えるため、以下の形式で尋ねた。

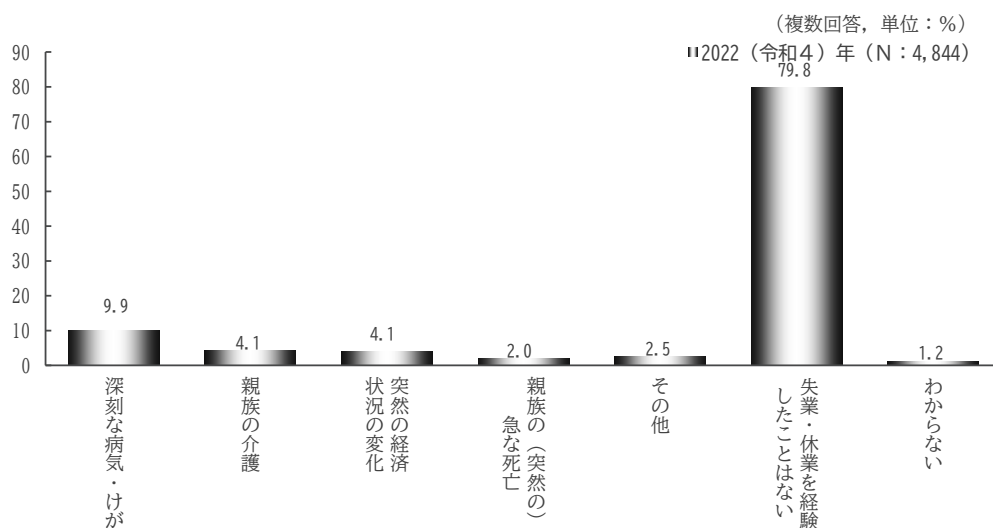
以下の原因により、あなたご自身が失業・休業・廃業を経験されたことはありますか。あてはまるものをいくつでもお答えください。

- (ア) 深刻な病気・けが
- (イ) 親族の介護
- (ウ) 親族の(突然の)急な死亡
- (エ) 突然の経済状況の変化
- (オ) その他
- (カ) 失業・休業を経験したことはない
わからない

(1) あなた自身の経験

自身の失業・休業・廃業経験とその理由を尋ねたところ、「深刻な病気・けが」が9.9%で最も高く、以下「親族の介護」「突然の経済状況の変化」(いずれも4.1%)、「親族の(突然の)急な死亡」(2.0%)の順となっている。なお、「失業・休業を経験したことはない」は79.8%となっている。(図表 I-34)

<図表 I-34> あなた自身の経験



性別にみると、女性で「親族の介護」、「親族の（突然の）急な死亡」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男性70歳代、女性50～60歳代で「深刻な病気・けが」が高く、男性50～60歳代、女性50～70歳代で「親族の介護」が高くなっている。また、男性50歳代では「親族の（突然の）急な死亡」が、女性50歳代では「突然の経済状況の変化」が高くなっている。（図表 I-35）

<図表 I-35> あなた自身の経験〔性・年齢別〕

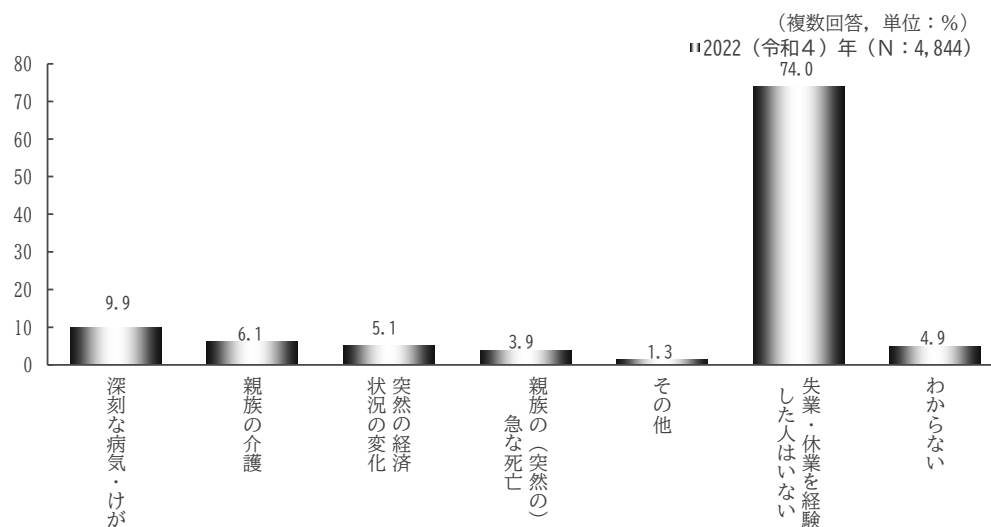
(単位：%)

	N	深刻な 病気・ けが	親族の 介護	変 化 突 然 の 経 済 状 況 の	急 な 死 亡 （ 突 然 の ）	そ の 他	失 業 ・ 休 業 を 経 験 し た こ と は な い	わ か ら な い
男 性	2,141	10.7	2.3	4.4	1.2	2.5	80.5	1.0
20歳代	235	5.1▲	0.4▲	1.3▲	0.9	2.6	88.9	1.3
30歳代	275	4.7▲	0.0▲	1.8▲	0.4	1.8	89.8	1.5
40歳代	375	12.3	1.6	4.8	1.1	2.4	79.7	0.5
50歳代	358	13.4	5.0	6.1	2.8	3.6	73.5▲	1.7
60歳代	422	11.8	3.8	4.7	1.2	1.7	78.9	0.5
70歳代	447	13.6	1.8	6.0	0.9	3.1	76.7▲	1.1
女 性	2,703	9.2	5.6	3.8	2.6	2.4	79.3	1.3
20歳代	210	5.7	0.0▲	0.5▲	1.0	2.4	90.0	1.0
30歳代	366	6.6	1.6▲	3.6	1.6	3.0	84.7	1.4
40歳代	534	7.1	3.2▲	2.8	2.8	3.4	82.0	0.9
50歳代	508	12.0	8.3	5.7	2.6	2.4	75.4▲	0.8
60歳代	505	11.5	8.9	4.4	2.8	1.6	73.3▲	1.8
70歳代	546	10.1	7.5	3.8	3.5	2.2	77.3	1.8

(2) 家族・友人・知人による経験

家族・友人・知人の失業・休業・廃業経験とその理由を「失業・休業を経験したことはない」を含む6項目をあげて尋ねたところ、「深刻な病気・けが」が9.9%で最も高く、以下「親族の介護」(6.1%)、「突然の経済状況の変化」(5.1%)、「親族の（突然の）急な死亡」(3.9%)の順となっている。なお、「失業・休業を経験したことはない」は74.0%となっている。（図表 I-36）

<図表 I-36> 家族・友人・知人による経験



性別にみると、女性で「親族の介護」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男性50歳代、女性50～60歳代で「親族の介護」が高く、女性50歳代で「深刻な病気・けが」が高くなっている。(図表 I-37)

<図表 I-37> 家族・友人・知人による経験〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	深刻な 病気・ けが	親族 の 介護	突 然 の 経 済 状 況 の 変 化	親 族 の 急 死 亡 (突 然 の)	そ の 他	失 業 ・ 休 業 を い ない 経 験	わ か ら な い
男 性	2,141	9.0	4.8	5.2	3.9	1.1	75.2	5.1
20歳代	235	7.7	2.1▲	3.0	4.3	0.9	80.9	4.3
30歳代	275	9.8	2.9	5.5	4.0	0.7	76.0	3.6
40歳代	375	10.1	4.5	5.1	3.7	0.8	76.5	4.5
50歳代	358	10.6	7.3	5.9	3.1	1.1	70.4▲	5.6
60歳代	422	6.6	6.4	5.0	4.7	1.2	73.9	5.9
70歳代	447	9.8	4.3	6.0	4.0	1.6	74.3	5.8
女 性	2,703	10.6	7.1	5.0	4.0	1.6	73.0	4.8
20歳代	210	6.2▲	0.0▲	4.3	2.4	1.9	83.3	2.9
30歳代	366	8.7	4.9	4.4	2.2	1.1	76.5	4.9
40歳代	534	12.2	7.5	4.7	5.1	1.7	71.3	3.9
50歳代	508	13.4	9.3	5.3	4.1	1.4	68.7▲	5.3
60歳代	505	11.7	9.5	5.0	3.8	1.6	69.5▲	5.5
70歳代	546	8.6	7.1	5.9	4.8	1.6	75.8	4.6

7. 健康状態・運動習慣・食習慣

自身の現在の健康状態・運動習慣・食習慣について、同年代の平均的な人と比べたときの状況を捉えるため、以下の形式で尋ねた。

以下のそれぞれについて、同年代の平均的な人と比べたときのあなたの状況についてお答えください。

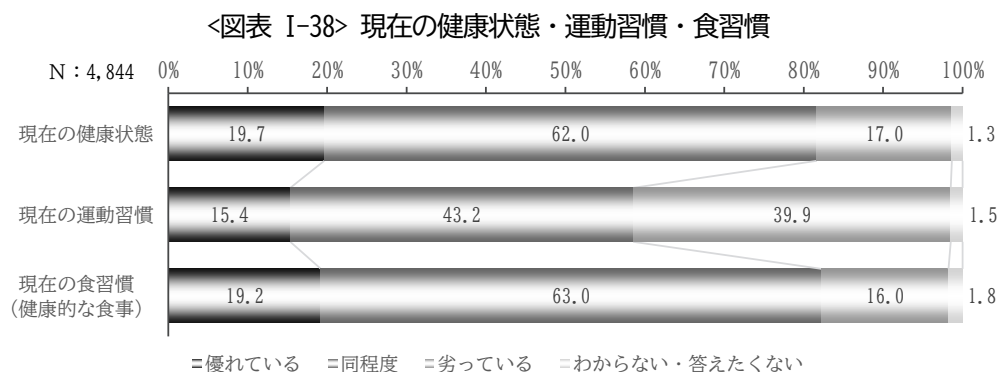
- (1) あなたの健康状態
- (2) あなたの運動習慣
- (3) あなたの食習慣（健康的な食事）
 - (ア) 優れている
 - (イ) 同程度
 - (ウ) 劣っている
 - (エ) わからない・答えたくない

(1) 現在の健康状態・運動習慣・食習慣

自身の現在の健康状態・運動習慣・食習慣について、同年代の平均的な人と比べたときの状況を尋ねたところ、健康状態では「優れている」は19.7%、「劣っている」は17.0%となっている。なお「同程度」は62.0%となっている。

運動習慣では「優れている」は15.4%、「劣っている」は39.9%となっている。なお「同程度」は43.2%となっている。

食習慣では「優れている」は19.2%、「劣っている」は16.0%となっている。なお「同程度」は63.0%となっている。(図表 I-38)



現在の健康状態について性別にみると、男性で「優れている」が高くなっている。
 性・年齢別にみると、男女とも 20 歳代で「優れている」が高く、男性の 70 歳代、女性の 60～70 歳代で「劣っている」が高くなっている。(図表 I-39)

<図表 I-39> 現在の健康状態〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	優れている	同程度	劣っている	わからない・ 答えたくない
男 性	2,141	21.0	60.7	17.3	1.0
20歳代	235	33.6	52.3▲	12.3▲	1.7
30歳代	275	20.4	68.4	10.5▲	0.7
40歳代	375	20.8	62.9	15.2	1.1
50歳代	358	19.3	60.3	18.7	1.7
60歳代	422	15.9▲	64.7	19.0	0.5
70歳代	447	20.1	55.5▲	23.7	0.7
女 性	2,703	18.6	63.0	16.8	1.6
20歳代	210	28.1	61.4	9.5▲	1.0
30歳代	366	21.3	65.3	12.3▲	1.1
40歳代	534	18.4	64.8	14.8	2.1
50歳代	508	14.4▲	67.1	16.5	2.0
60歳代	505	13.9▲	64.0	20.0	2.2
70歳代	546	20.3	56.0▲	22.7	0.9

現在の運動習慣について性別にみると、男性で「優れている」が、女性で「劣っている」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男性の 20 歳代、女性の 70 歳代で「優れている」が高く、女性の 30～40 歳代で「劣っている」が高くなっている。(図表 I-40)

<図表 I-40> 現在の運動習慣〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	優れている	同程度	劣っている	わからない・ 答えたくない
男 性	2,141	18.4	44.3	35.8	1.5
20歳代	235	24.7	38.3▲	36.2	0.9
30歳代	275	17.8	41.8	39.6	0.7
40歳代	375	17.1	45.3	35.7	1.9
50歳代	358	15.6	44.1	38.0	2.2
60歳代	422	16.8▲	49.1	32.7	1.4
70歳代	447	20.4	43.6	34.5	1.6
女 性	2,703	13.0	42.3	43.2	1.5
20歳代	210	12.9	41.0	45.2	1.0
30歳代	366	8.7▲	41.0	49.5	0.8
40歳代	534	10.9	36.5▲	51.1	1.5
50歳代	508	10.4	41.1	47.0	1.4
60歳代	505	13.3	44.2	40.6	2.0
70歳代	546	20.0	48.5	29.7▲	1.8

現在の食習慣について性別にみると、女性で「同程度」が高くなっている。

性・年齢別にみると、男女とも70歳代で「優れている」が高くなっている。また、男性の40～50歳代、女性の40歳代で「劣っている」が高くなっている。(図表 I-41)

<図表 I-41> 現在の食習慣〔性・年齢別〕

(単位：%)

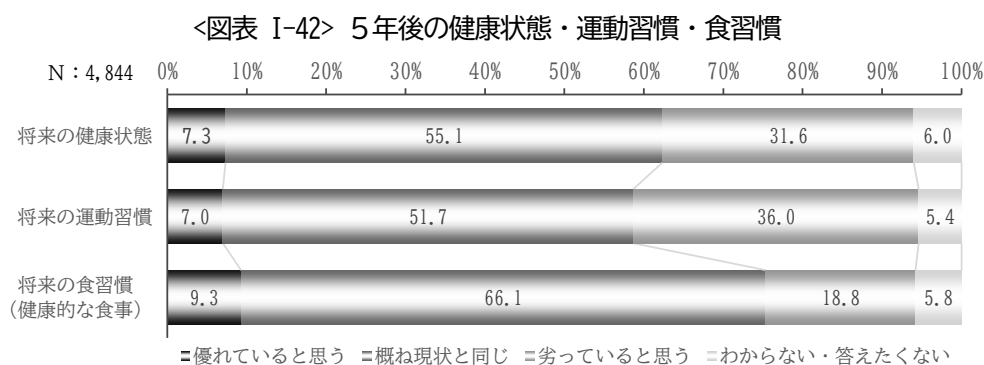
	N	優れている	同程度	劣っている	わからない・ 答えたくない
男 性	2,141	20.1	61.4	17.0	1.5
20歳代	235	22.1	56.6	19.1	2.1
30歳代	275	20.4	57.8	20.7	1.1
40歳代	375	14.4▲	61.9	20.5	3.2
50歳代	358	14.5▲	63.4	20.7	1.4
60歳代	422	18.5	68.0	12.3▲	1.2
70歳代	447	29.3	58.2	11.9▲	0.7
女 性	2,703	18.5	64.3	15.2	2.0
20歳代	210	23.3	57.1▲	18.1	1.4
30歳代	366	14.8▲	67.8	16.4	1.1
40歳代	534	12.7▲	64.8	20.2	2.2
50歳代	508	13.0▲	67.5	17.3	2.2
60歳代	505	18.0	66.1	13.5	2.4
70歳代	546	30.0	59.2▲	8.8▲	2.0

(2) 5年後の健康状態・運動習慣・食習慣

自身の5年後の健康状態・運動習慣・食習慣について、現在の自分の状況と比べたときの予想を尋ねたところ、健康状態では「優れていると思う」は7.3%、「劣っていると思う」は31.6%となっている。なお「概ね現状と同じ」は55.1%となっている。

運動習慣では「優れていると思う」は7.0%、「劣っていると思う」は36.0%となっている。なお「概ね現状と同じ」は51.7%となっている。

食習慣では「優れていると思う」は9.3%、「劣っていると思う」は18.8%となっている。なお「概ね現状と同じ」は66.1%となっている。(図表 I-42)



5年後の健康状態について性別にみると、男性で「優れていると思う」が高くなっている。性・年齢別にみると、男女とも20歳代で「優れていると思う」が高く、60～70歳代で「劣っていると思う」が高くなっている。(図表 I-43)

＜図表 I-43＞ 5年後の健康状態〔性・年齢別〕

(単位：%)

	N	優れている と思う	概ね現状と 同じ	劣っている と思う	わからない・ 答えたくない
男 性	2,141	8.7	54.8	31.1	5.4
20歳代	235	19.6	64.3	13.6▲	2.6▲
30歳代	275	10.9	69.5	16.4▲	3.3
40歳代	375	8.5	62.7	24.3▲	4.5
50歳代	358	8.9	53.6	33.5	3.9
60歳代	422	5.2▲	50.2▲	38.9	5.7
70歳代	447	4.3▲	38.3▲	47.4	10.1
女 性	2,703	6.2	55.3	32.0	6.5
20歳代	210	17.6	72.4	7.6▲	2.4▲
30歳代	366	7.4	67.8	22.1▲	2.7▲
40歳代	534	6.2	64.0	24.2▲	5.6
50歳代	508	4.7	56.9	34.4	3.9▲
60歳代	505	3.2▲	47.5▲	40.4	8.9
70歳代	546	4.2▲	36.8▲	47.3	11.7

5年後の運動習慣について性別にみると、男性で「優れていると思う」が高くなっている。
 性・年齢別にみると、男性の20～30歳代、女性の20歳代で「優れていると思う」が高く、男性の70歳代、女性の60～70歳代で「劣っていると思う」が高くなっている。(図表 I-44)

<図表 I-44> 5年後の運動習慣〔性・年齢別〕

(単位：%)					
	N	優れている と思う	概ね現状と 同じ	劣っている と思う	わからない・ 答えたくない
男 性	2,141	8.7	53.1	33.1	5.1
20歳代	235	17.0	57.4	23.0▲	2.6
30歳代	275	12.7	64.4	21.1▲	1.8▲
40歳代	375	9.3	57.6	29.6	3.5
50歳代	358	7.5	55.0	32.4	5.0
60歳代	422	6.2▲	52.1	36.0	5.7
70歳代	447	4.3▲	38.9▲	47.0	9.8
女 性	2,703	5.6	50.5	38.3	5.6
20歳代	210	9.5	65.2	23.3▲	1.9▲
30歳代	366	6.8	60.1	30.1▲	3.0▲
40歳代	534	4.9	55.8	34.3▲	5.1
50歳代	508	6.1	50.6	40.0	3.3▲
60歳代	505	3.2▲	45.9▲	44.0	6.9
70歳代	546	5.3	37.2▲	47.3	10.3

5年後の食習慣について性別にみても、大きな差異はみられない。
 性・年齢別にみると、男女とも20歳代で「優れていると思う」が高く、70歳代で「劣っていると思う」が高くなっている。(図表 I-45)

<図表 I-45> 5年後の食習慣〔性・年齢別〕

(単位：%)					
	N	優れている と思う	概ね現状と 同じ	劣っている と思う	わからない・ 答えたくない
男 性	2,141	10.0	66.2	18.1	5.7
20歳代	235	18.3	60.9	17.4	3.4
30歳代	275	12.0	71.6	12.7▲	3.6
40歳代	375	8.5	70.7	16.5	4.3
50歳代	358	7.8	69.8	17.3	5.0
60歳代	422	7.8	68.2	18.5	5.5
70歳代	447	9.2	55.9▲	24.6	10.3
女 性	2,703	8.7	66.0	19.4	5.9
20歳代	210	17.6	68.6	11.9▲	1.9▲
30歳代	366	7.7	75.1	14.5▲	2.7▲
40歳代	534	8.1	70.4	17.4	4.1
50歳代	508	7.1	67.5	19.9	5.5
60歳代	505	6.1▲	64.4	20.6	8.9
70歳代	546	9.7	54.9▲	26.4	9.0

5年後の健康状態について現在の健康状態別にみると、男女とも概ね現状と同じであると予想している割合が高くなっている。(図表 I-46)

<図表 I-46> 5年後の健康状態〔性・現在の健康状態別〕

		(単位：%)				
		N	優れている と思う	概ね現状と 同じ	劣っている と思う	わからない・ 答えたくない
男	性	2,141	8.7	54.8	31.1	5.4
優	れている	450	34.4	48.2▲	11.6▲	5.8
同	程度	1,300	2.0▲	65.1	27.8▲	5.2
劣	っている	370	1.1▲	28.1▲	66.8	4.1
わからない・答えたくない		21	4.8	28.6▲	28.6	38.1
女	性	2,703	6.2	55.3	32.0	6.5
優	れている	502	25.7	55.0	13.9▲	5.4
同	程度	1,702	1.8▲	64.6	28.5▲	5.1▲
劣	っている	455	1.8▲	23.7▲	65.5	9.0
わからない・答えたくない		44	0.0	27.3▲	25.0	47.7

5年後の運動習慣について現在の運動習慣別にみると、男女とも概ね現状と同じであると予想している割合が高くなっている。(図表 I-47)

<図表 I-47> 5年後の運動習慣〔性・現在の運動習慣別〕

		(単位：%)				
		N	優れている と思う	概ね現状と 同じ	劣っている と思う	わからない・ 答えたくない
男	性	2,141	8.7	53.1	33.1	5.1
優	れている	393	35.6	46.6▲	12.0▲	5.9
同	程度	949	2.2▲	69.2	24.4▲	4.1
劣	っている	767	3.1▲	37.5▲	55.0	4.3
わからない・答えたくない		32	6.3	25.0▲	21.9	46.9
女	性	2,703	5.6	50.5	38.3	5.6
優	れている	351	28.5	51.9	14.5▲	5.1
同	程度	1,143	2.0▲	67.3	26.2▲	4.5▲
劣	っている	1,168	2.5▲	34.7▲	57.0	5.8
わからない・答えたくない		41	0.0	24.4▲	43.9	31.7

5年後の食習慣について現在の食習慣に対する予想をみると、男女とも概ね現状と同じであると予想している割合が高くなっている。(図表 I-48)

<図表 I-48> 5年後の食習慣〔性・現在の食習慣別〕

		(単位：%)				
		N	優れている と思う	概ね現状と 同じ	劣っている と思う	わからない・ 答えたくない
男	性	2,141	10.0	66.2	18.1	5.7
優	れている	430	41.2	47.9▲	5.6▲	5.3
同	程度	1,315	1.6▲	79.8	13.9▲	4.6▲
劣	っている	363	4.4▲	41.9▲	48.8	5.0
わからない・答えたくない		33	0.0	27.3▲	12.1	60.6
女	性	2,703	8.7	66.0	19.4	5.9
優	れている	500	35.4	52.0▲	7.2▲	5.4
同	程度	1,738	2.4▲	78.0	14.9▲	4.7▲
劣	っている	411	3.6▲	37.2▲	53.0	6.1
わからない・答えたくない		54	1.9	29.6▲	20.4	48.1